総合的な学習の時間・選択教科に役立つ

国際理解教育の手引き

■平成14年度小学校教師海外研修に参加して■

JICA LIBRARY
1192264 [8]

国内国
J R

JICA
ジャイカ
独立行政法人 国際協力機構

はじめに

平成15年10月1日、JICAは独立行政法人国際協力機構として、新しいスタートをきりました。新生JICAは、「よりよい明日を、世界の人々と」をスローガンに日本と開発途上国の人々をむすぶ架け橋として、互いの知識や経験を活かした協力をすすめ、平和で豊かな世界の実現をめざしております。

日本は、今でこそ世界有数の政府開発援助（ODA）の供与国となりましたが、第二次世界大戦後しばらくの間は最貧国のひとつであり、諸外国や国際機関等の支援により復興を果たし、その後高度成長を遂げるに至ったという歴史があります。そして、今日の日本の繁栄も開発途上国をはじめとする他の国々との相互依存の上に成り立っています。
JICAは、このような認識から日本の市民の皆様に対して、開発途上国の実情と日本との関わりについて理解を促すことにより、開発途上国と日本の市民を結ぶ「架け橋」となるべく開発教育支援事業を実施しております。

この開発教育支援事業の一環として、私共は、授業を通して多数の生徒を教育する教師の役割を重視し、開発教育や国際理解教育に熱心に取り組んでおられる教師の皆様を対象として開発途上国への研修旅行を実施しております。この研修を通じ、開発途上国の置かれている現状と日本と開発途上国との関係への理解を深められた教師の皆様は、研修で持ち帰られたご経験をもとに、次代を担う生徒の教育に役立てられております。

今般、各学校現場において開発教育・国際理解教育の実践に日々取り組んでおられる上記海外研修に参加された教師の皆様の授業実践例を、このような冊子として取りまとめました。この冊子が開発教育や国際理解教育に関心のある方々の参考資料として、「総合的な学習」等の教育の現場での一助になれば幸いに存じます。

平成16年3月

独立行政法人国際協力機構
国内事業部長　湊　芳郎

はじめに

研修を生かした授業実践例

■世界に目を向けて …… 長岡　悟司　4

■ふれあい・助け合い・私たちの地球 …… 板垣　圭一　10

■その時、3組が動いた！ …… 矢島　一彦　16
～私たちはラオスを支援します～

■ガーナを学ぼう …… 村上　浩一　28

■共に生きる人間として …… 吉岡　栄作　39
― 平和・国際理解学習を通して ―

■人・人・人 …… 谷口　康代　48
～見つけよう　つなげよう　人の輪～

参考資料

■事前研修 …… 62

■東京研修日程 …… 63

コース別日程／参加者氏名（ラオス） …… 64

コース別日程／参加者氏名（ガーナ） …… 67

■訪問国概要 …… 69

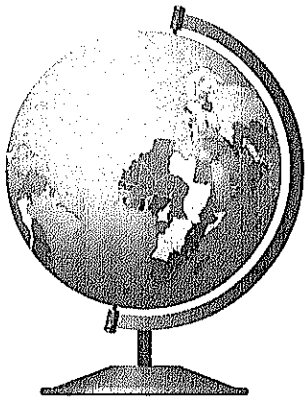
■開発教育関係団体及び教材紹介 …… 71

■JICAはこんなこともしています …… 79

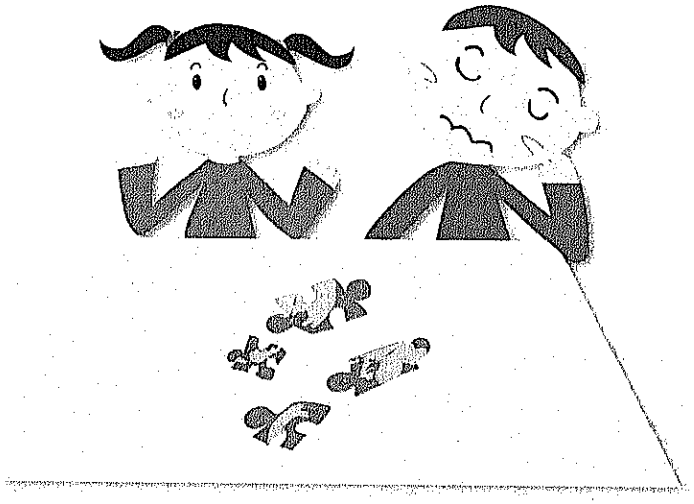
■地域国際化協会一覧 …… 80

■問い合わせ先 …… 82

1192264 [8]



研修を生かした授業実践例



教師および生徒の原文を生かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

世界に目を向けて

長岡悟司 NAGAOKA SATOSHI
特殊教育
実践校・河北町立谷地中部小学校
現任校・西川町立岩根沢小学校（山形県）

◎実践教科　総合的な学習の時間
◎時 間 数　15時間
◎対象学年　5・6年　　◎対象人数　4名

カリキュラム

実践の目的

本校には2つの特殊学級（知的障害、情緒障害）と通級指導教室（言語障害）があり、筆者は通級指導教室（ことばの教室）を担当している。3つの教室は隣り合っており、行事や生活単元学習を合同で行ったり、通級担当が作業や個別学習に手伝ったりすることもある。

本校の特殊学級（軽度知的障害）に在籍する児童は、地理や社会的事象に対する知識が乏しい。自分たちが住む町や地域のことはある程度分かるが、日頃、社会科の系統学習をしていないので、それ以外の地域についてはテレビを通じて触れた範囲の断片的な理解に留まっている。しかし、楽しいことや未知の世界へのあこがれは、通常学級の子ども達と同じように持っている。それで、異文化に触れたり、外国語であいさつしたりすれば、外国に関心を持つようになり、社会認識も変わるのではないかと考えた。

そんな折、子ども達にラオスの話をしてもらえないかと特殊学級（知的障害）担任から話があり、総合的な学習として週1～2時間、「外国の勉強」をすることにした。その主なねらいは、以下のように設定した。

①異文化に関心を持ち、進んで学ぼうとする意欲を育てる。

②開発途上国が抱えるいろいろな問題とユニセフの活動について知る。

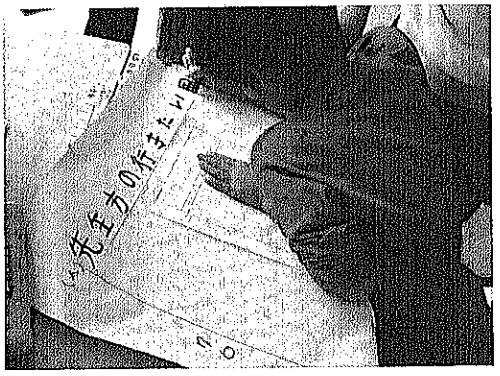
③学んだことをもとに、自分の生活を見つめ直そうとする態度を育てる。

授業の詳細

【1～2時限】行ってみたい国調べ

ラオスの旅行写真を見せながら、「夏休みに外国に行って来たよ」と話したら、子ども達は関心を示し、「何に乗って行ったの」「きっぷ見せて」などと質問をしてきた。それで、「君たちはどんな国に行ってみたいですか」と聞いてみた。すると、「アフガニスタンに行きたい。かわいそうだから、助けてあげたい。」「私も飛行機に乗ってみたい」「モンゴルにも行きたい。お相撲さんが大活躍しているでしょ。」などの意見を出した。その知識は断片的だが、言葉としてはいろいろなことを知っているなと感心した。これから進める「外国の勉強」で、やってみたいことは何かを尋ねたところ、「先生方にも、どんな国に行ってみたいか聞きたい」という意見が出されたので、次の時間に取り上げることにした。

2時間目は、先生方から書いてもらったアンケートの集計と、外国のお菓子でティータイムを行った。



授業の構成

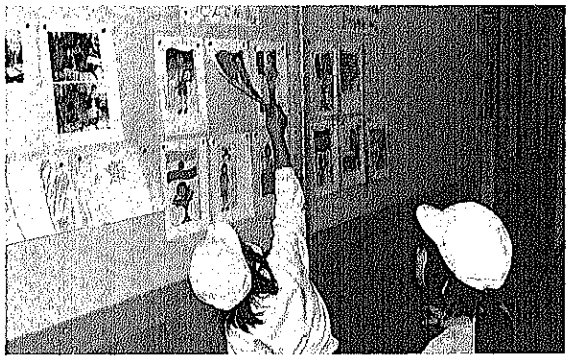
時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～2時限 行ってみたい国調べ 外国に関心を持つ。 世界にはいろいろな国があることを知る。	1. 自分が行ってみたい国、知っている国について発表する。 2. アンケートを元に、先生方が行ってみたい国のランキングをする。	・『せかいちず絵本』（戸田出版）
3～4時限 外国からきた食べ物調べ 私たちは世界とつながって生活していることに気づく。	1. 近くのスーパーに出かけ、外国からきた食品がないか調べる。 2. メモを元に食べ物の絵を描き、世界白地図に貼り付ける。	・『国名ワーク』（ヤマセ教材）
5～7時限 世界の言葉で話そう 外国の言葉や文化に関心を持つ。	1. ビデオで外国の子どもたちの暮らしぶりを知る。 2. 世界の国旗クイズを作る。 3. 世界の言葉クイズを作る。	・『いろんな国・いろんなことば』（ポプラ社）
8～10時限 開発途上国に目を向けよう 世界には、貧困や病気、自然災害や戦争などで困っている人がたくさんいることに気づく。	1. ビデオで開発途上国のくらしと日本の援助について知る。 2. 写真を元に、ラオス人のくらしでは十分な教育や医療ができず困っている人々がいることを知る。	・『世界のみんなの笑顔のために』（外務省）
11～12時限 ハロウィーンパーティーをしよう 外国の文化に触れながら楽しく交流する。	1. ハロウィーンの準備をする。 2. 青年海外協力隊（JOCV）のOGからエル・サルバドルのくらしについて話を聞き、ハロウィーンパーティーをする。	
13～14時限 ユニセフについて学ぼう ユニセフの活動につい知り、自分でできることは何か考える。	1. クイズ形式で開発途上国の問題について考える。 2. 世界で活躍するユニセフについて学ぶ。	・ポスターセット、ビデオ（ユニセフ）
15時限 学習のまとめをしよう	これまでの学習を振り返って、感想を話し合う。	

[3～4時限] 外国からきた食べ物調べ

近くのスーパーマーケットに出かけ、「外国から来た食べ物調べ」を行った。野菜や果物、魚介類や肉類などの生鮮食料品コーナーだけでなく、お菓子売り場などでも一つ一つ手にとってチェックし、ペッツやチョコレート、落花生なども外国から来ていることを見つけて、大喜びしていた。そのメモを元に、図鑑を見ながらカードに絵を描き、拡大した世界白地図に貼り付けて、食べ物のふるさとを表した。

[5～7時限] 世界の言葉で話そう

世界の国旗カードを元に、画用紙に気に入った国旗を描き、裏に答えを書いて、国旗クイズを作った。また、世界の暮らしとことばを取り上げたビデオを見て、世界のさまざまな地域の暮らしぶりやことばの違いに関心を持った。そして、「世界のことばでこんにちは」「世界のことばでありがとう」クイズを作り、国旗クイズと同様に廊下の掲示板に貼りだした。昼休みの時間などに、通常学級の児童がそれらをめくって、クイズを楽しんでいる様子も見られた。



[8～10時限] 開発途上国に目を向けよう

ラオス研修で撮ってきた写真を使って、ラオスの現状と日本の援助について学習した。まず、ラオスの子ども達が石蹴りやトランプ、ブランコで遊ぶのを見せたら、「私達と同じみたいな遊びをしてる。」と驚きの声が挙がった。懇親会や研修の合間に見せた笑顔についても、素敵だねと話し合った。次に、ビエンチャンや村の小学校の写真を見せて、私達の学校と違うところはあるかと質問した。すると、「黒板はあるけど、壁がぼろぼろだ」、「机や椅子がつながっている」、「床が無くて土だ」と子ども達はびっくりした様子で言った。そこで、校舎は新しくなくても、子ども達はみな賢くなりたいと真剣に勉強していること、そして、山岳地方では、水くみや家の手伝いが忙しかったり、近くに学校がなかったりして、学校に行きたくても行けない子どもたちがまだ多くいるということを解説した。そのほか、ラオスで働く日本人として、ルアンパバン県立病院で看護士として活動している青年海外協力隊員を紹介した。病院で診てもらうために、家財道具を売り払ってやってくる貧しい人々を、彼女が懸命に支えている様子を話すと、とても感激したようだった。

[11～12時限] ハロウィーンパーティーをしよう

校内研修で国際理解学習を見てもらうことになった。JICAのサーモンキャンペーンを利用して、青年海外協力隊（JOCV）のOGを招き、外国での経験を話してもらうことにした。子ども達の中には、1時間ずっと話を聞くのが難しい子もいるので、踊りやパーティーを組み合わせて計画した。

	主な学習活動	子ども達の声
前時の様子 (11時限)	お化けのお面に色塗りをし、どんな衣装にするか話し合った。	ハロウィーンパーティーしようよ。
当日の様子 (12時限)	休み時間、情緒障害学級の1年生も一緒に、お化けの扮装で職員室に行く。 お菓子をたくさんもらってくる。 JOCVのOGが留学生を連れて来校。写真や実物を見せながら、エル・サルバドルの生活体験を話してくれた。また、参観者も交えてサルサのステップを体験した。 最後に、お菓子と飲み物で講師を接待し、話し合いを楽しんだ。	「お菓子をくれないといたずらするぞ」 校長先生が「おばけー」ってまねしたよ。 先生と踊ってうれしかったです。 日本人は水の使いすぎだと思う。

[13～14時限] ユニセフについて学ぼう

児童会でユニセフ募金に取り組むことになった。それに先立ち、特殊学級でもユニセフの活動を紹介することにした。初めに、ユニセフから取り寄せたポスターを折ったまま1/4だけ見せて、気づいたことを発表し合った。そして、ユニセフの旗、水がある喜び、ユニセフが作られた目的等について解説した。

次の時間は、ビデオ「ユニセフと地球のともだち」を視聴して前時の学習を確かなものにした。世界の子ども達のためにユニセフがいろいろな活動をしていることが理解できて感動し、「ユニセフに募金するぞ」と話す児童もいた。

【15時間】学習のまとめをしよう

これまでに行った学習活動を振り返って、楽しかったことを話し合った。それから、感想文を書いた。あまり学習に参加できないことの多い児童も、たくさん感想を書いてくれた。

〈特殊学級以外での実践〉

1．JICAパネル展

PTA主催の「ふれあいコンサート」に合わせて、体育館でパネル展を開催した。

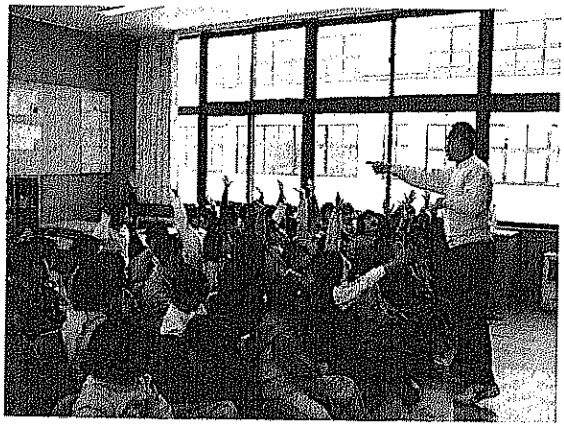
ラオスで撮ってきた写真もポスターにして見てもらった。十分な時間がとれず、一日だけの展示だったが、立ち止まってじっくり見てくれる人もいた。

2．職員研修で

3学期始業式の日、午後からラオス視察の報告会を開いた。校長はじめ全職員が参加して聞いてくれた。パワーポイントを使って、ラオスの文化やくらし、ODAの現状について報告した。家族でタイに行って来たばかりの職員や、東南アジアの学校を視察した経験のある職員もいて、宗教色の濃い文化、貧しいけれど生き生きした人々といった面は「同じだった」と頷いてくれた。また、校長がいろいろな人の感想を引き出してくれ、活発な研修となった。

3．通常学級での実践

児童会のユニセフ募金に合わせて、校内の全学年に出向いてユニセフについての授業を行った。ポスターを使ってクイズ形式で進め、感想を出し合うゆったり授業や、ビデオを見せて感想を書いてもらうだけの短時間型もあった。また、ユニセフ募金活動が終了してからは、子どもの権利条約を取り上げてみた。『ユニセフと世界のともだち』という冊子にある「子どもの権利カード」を使い、グループで読み合わせをしてから、自分たちにとって最も大事な権利はどれか話し合いをもった。一人一人が選ぶ条文はさまざまで、グループごと1つを決めるのは難しいようだった。しかし、子どもにもいろいろな権利が決められていることを知って、びっくりした様子だった。



4．プレゼンテーション・スキルアップ・セミナー

山形地区からJOCVとして海外で活躍し、帰国した方を主な対象にして、標題のような報告会を開催してもらった。パワーポイントとラオスで買ってきた実物を見せながら、ラオスのくらしや文化、JICA研修で見てきたこと、特に出会った関係者の様子について話した。参加者は10数名と少なかったが、発表の後、さらに工夫したらよい点について指摘を受けて、収穫の多いセミナーとなった。

5．サーモンキャンペーン

庄内地区にある余目町国際交流協会の研修会に、講師として呼ばれることになった。50名程の会員に「ODAの現場から」という題で話す予定である。写真をパワーポイントで提示したり、JOCAから借りた「ラオスボックス」などを利用したりして、責任を果たしたいと考えている。

●◎ 成果と課題 ◎●

子ども達は、「先生、あした外国の勉強だね」と、いつも楽しみに待っていてくれた。病気で休みがちの子、定期的に通院の必要な子などがいて、4人そろって学習できたのは数えるほどしかない。しかし、限られた学習時間だったが、世界各国の文化やことば、くらしに触れて、肌の色や習慣は違っても同じ地球に住む仲間との意識は育ったように思う。また、自分たち

の知らない貧困の実態や、安全な水の大切さを実感したようである。

子ども達と一緒に学習してきて、「外国のこと」というだけで子ども達には大きな魅力だということが分かった。英語に限らず、外国の言葉で話すこと、外国の文化や人々のくらしに触れる学習をするとき、子ども達は瞳を輝かせた。そして、今まで知らなかった世界が、子ども達の心に広がっていくのが分かった。また、通常学級で1時間限りの授業をしたとき、テーマを絞って効率的に進めないとうまくいかなかった。今後、実践を重ねていきたい。

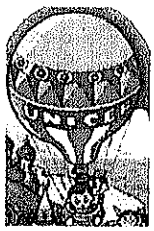
今回の実践を進めるに当たって、本校の職員からいろいろな形で協力してもらった。また、山形県国際交流協会からは、授業を進める上で資料提供や講師派遣をしてもらった。最後に、海外研修の機会を与えてくれたJICAにも大変お世話になった。ここに記して、お礼に代えたい。

資料 1

せかいのことばで「こんにちは」

1	ハロー	（アメリカ）
2	ニイハオ	（中国）
3	ナマステ	（インド）
4	オラ	（スペイン）
5	ジャンボ	（ケニア）
6	ボンジョルノ	（イタリア）
7	ボンジュール	（フランス）
8	グーテンモルゲン	（ドイツ）
9	ドブリジェ	（ロシア）
10	アンニョン・ハシムニカ	（かん国）

5～7時限　「世界の言葉で話そう」



メッセージカード

今日の学習を通して、感じたことや考えたことをメッセージにして送りませんか。だれに、どんなことばを送りたいか書いてください。

学校名　河北町立谷地中部小学校
学年・組　＿＿年＿＿組
なまえ　＿＿＿＿＿＿＿＿

メッセージを送りたい人　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿へ
メッセージ（感想でもいいです）

13～14時限　ユニセフ学習の後で使用

資料 2

きょう、ながおかせんせいといっしょにべんきょうをしました。1じかんめはプリントをかきました。2じかんめはビデオをみました。たいろんなくにのことばやこっきがいろいろでておもしろかった。ながおかせんせいとまたがいつくのべんきょうしたいなとおもいました。もくようびしょうね。それからたのしかったよありがとう。

ながおか先生へ
ハロウィーンパーティーをみんなでするのがたのしみです。
おかしをもらうのがとってもたのしみです。

平均じゅみょう
① 54才(ラオス)：80才(日本)

平均の子どもの人数(ラオス)
② 1.4人(日本)：5.6人

産まれてからラオスでになくなる人の数
③ 1.3人(ラオス)：(111)人

④ フランスパン

⑤ 水

1. 知る
2. 考える
3. 行動する

が、わたしたちのできること

感想

ラオスなどの国はこんなに大変なのに、私たちはこんなに幸せでいいんだろうかと思いました。いろんな運動があったら、参加してみたいです。

大好きな長岡先生へ
すごい手紙ありがとう。毎週いろんなことをして勉強してくれてどうもありがとう。
N先生がしゅっちょうしてたときずっと太陽にてくれたときは楽しかったよ。
今週のハッピーハロウィーンパーティーも楽しくまってるよ。
トリックオアトリートといいながらおかしをもらいにいこうね。

子どもたちの感想

参加動機およびプロフィール

英語活動をすることやALTと交流することが小学校の「国際理解教育」だと捉えている学校や教職員がまだ多いようですが、これでは英語や欧米文化へのあこがれを子ども達に持たせることはできても、広い視野を持ち自他を尊重しようとする心は育たないのではないかと不安に思っています。今回教師海外研修への参加を、開発途上国の文化や暮らしぶりに触れる絶好の機会ととらえ、自らの五感を総動員して吸収してきたいと思っています。

開発教育への取り組みとしては、町の教育研究所に国際理解教育部会があり、部員は30名弱で私は発足当初から事務局長として企画運営に携わってきました。前任校は、寒河江市にALTとして来ていたオーストラリアの方を小学校に招いて集会を行いました。ALTを招いての国際理解学習は小学校ではまだ珍しかったので、子どもたちには印象に残ったようでした。

ふれあい・助け合い・私たちの地球

板垣圭一 ITAGAKI KEIICHI
実践校・千代田町立下稲吉小学校
現在校・土浦市立土浦第三中学校（茨城県）

◎実践教科　総合的な学習の時間・社会・道徳
◎時 間 数　34時間
◎対象学年　6年　◎対象人数　108名（3クラス）

●● カリキュラム ●●

実践の目的

○いろいろな文化・習慣にふれ、視野を広める。
○コミュニケーション能力を高めたり、自分の意見を表現したりできる。
○国際協力に関心を持つ。
○異なる意見、異なる考えも、理解しようと努力し、尊重しようとする。

授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～10時限 第一ステージ 世界を知ろう：私たちのワールドカップ	世界の多様な文化生活習慣などを調べ、互いに発表しあう。	・インターネット ・図書資料など
第11時限 第二ステージ 国際協力の現場を知ろう	ラオスでの研修の様子を中心に、クイズやフォトランゲージなどの手法を用いて、国際協力の現場をかいま見る。	・「心のノート」自作フォトランゲージキット
第12時限 フォトランゲージ 「私は誰でしょう」	ラオスの子どもたちの様子をフォトランゲージを中心に。	・フォトランゲージキット「開発教育を考える会」版
第13時限 数字から世界を見よう	100人を36人に置き換えて、カードを36枚作成する。 そのカードを持って、疑似体験をし、世界全体を擬似的に俯瞰する。	・「世界がもし100人の村だったら」（マガジンハウス） ・自作カード
14～16時限 （事前活動を含む） ワールドキャラバン ふれあい集会	フィリピン・ペルー・アメリカの国籍のゲストティーチャーを招いて 異文化交流、多文化理解。歌やゲームも交えて、学ぶ。	・ワークシート
17～18時限 貿易ゲーム	「貧富」の差や「南北格差」を疑似体験できるプログラム。貿易の疑似体験を通じて、フェアトレードの概念を学習する。	・自作貿易ゲームキット
第19時限 「道徳」との関連	主題名「日本人としてできること」 （資料名「ネパールで学んだこと」文渓）	・道徳副読本　文渓
20～21時限 私たちに何ができるか？ （ガイダンス）	事前に児童が書いた活動構想案を元に、「ふれあいコース」「助け合いコース」にわけ、やってみたい活動を話し合う。	・模造紙 ・ポストイット

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
22~24時限 予備調査	話し合いで出てきた活動について、大まかな見通しを立てる。活動についての調べ学習をする。	・インターネットなど
25~32時限 個別活動	いくつかのグループに分かれて活動する（資料1）	
33~34時限 ふりかえり	活動のまとめと発表・振り返り	

授業の詳細

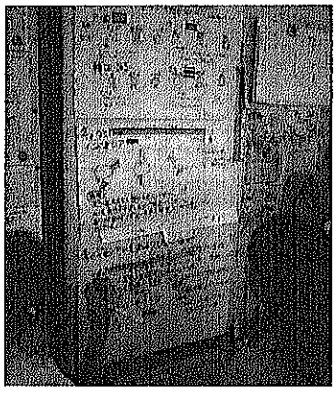
[1~10時限] 世界を知ろう

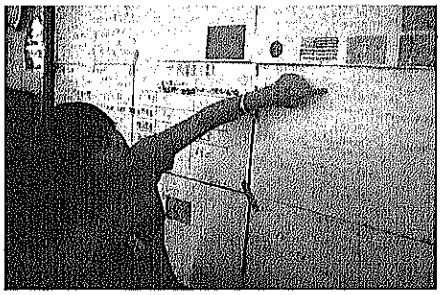
ワールドカップをきっかけに、興味のある国や事柄についての調べ学習を行っている。学習の主な内容は、民族衣装についてや国旗の由来、世界遺産、住居のペーパークラフト、世界の学校、行きたい国調べ、世界のじゃんけん調べなどであった。（写真①、②、③、④、⑤、⑥参照）

[11時限] 国際協力の現場を知ろう

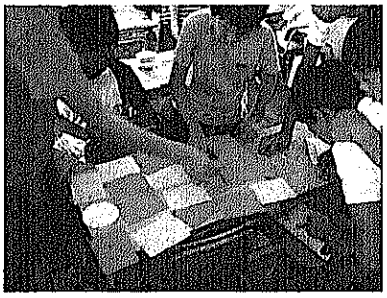
ラオスでの研修の様子を中心に授業を展開。導入で「心のノート」を活用した。（写真⑦「心のノート」に見入る児童参照）

水くみの少女（写真⑧）の写真を用いてのフォトランゲージは、児童の興味関心を喚起するのに、効果的であった。また、自転車ポンプの写真（写真⑨）を使って、「なぜ、日本の援助なのに、大型の高性能ポンプじゃないの？」という問いかけで、子どもたちの『援助』のイメージに揺さぶりをかけることが出来た。現地のニーズに寄り添う必要性に気がつくことが出来

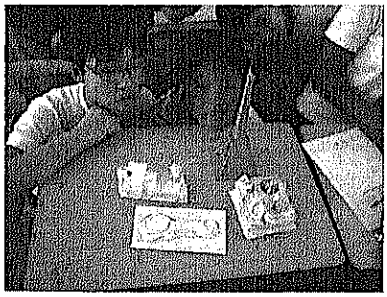




左写真①、上写真②：ポスターセッションの様子。掲示物を前に調べたことを発表し、質問を受ける。原稿は用意せず、わりと自由な感じ。

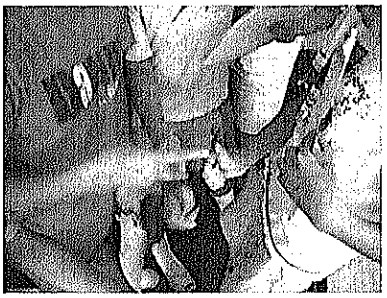


写真③：父親がフィリピンに出張に行っていた児童は、フィリピンについて調べ、フィリピンの特産物を絵あわせゲームにした。



写真④：世界遺産や世界の家を調べ、ペーパークラフトで表現した。

写真⑤：小冊子にまとめ、得意げな二人。



写真⑥：覚えたてのジャカルタのじゃんけんで遊ぶ。

た児童もいた。

【12時間】フォトランゲージ「私は誰でしょう」

ラオスの子どもたちの様子をフォトランゲージを中心に授業を展開。楽しい活動であったことはよかったが、深まりを感じることが出来なかった。ラオスは児童にとっては、身近な国ではなかった。

【13時間】数字から世界を見よう

100人を36人に置き換えて、カードを36枚作成する。そのカードを持って、疑似体験をし、世界全体を擬似的に俯瞰する。数字から世界の現状を俯瞰できたが、『日本人でよかった』という感想が残ったにすぎなかった。「たまたま日本に生まれた幸せを実感し、幸せを共有したい。」とまで、心情を高めるには、道徳的なアプローチも必要と実感した。

【14~16時間】ワールドキャラバン

フィリピン・ペルー・アメリカの国籍のゲストティーチャーを招いて異文化交流、多文化理解。歌やゲームも交えて、学ぶ。(写真⑩参照) 本校6年生には、ブラジル籍児童が3名在籍する。言葉そのものに不自由を感じることはなくても、他の児童との間に、見えない壁を作っている児童もいた。本人のパーソナリティの問題が大きいのだが、文化の違いも要素の一つであった。事前の学習や、本事業を通じて、彼らの表情が明るくなり、生き生きと活動する場面も見られた。講師の母国語スペイン語とポルトガル語が類似していることや、ペルーとブラジルが隣接していることなどがら、学習の中心的存在になれたのも効果があったとは思うが、なにより、他の児童の意識が変わり、本事業と関連して行った「総合的な学習の時間」での活動の様子によく現れていた。「内容知」の習得よりも、人と人との関わりを意識した取り組みが、功を奏したと考えている。

【17~18時間】貿易ゲーム

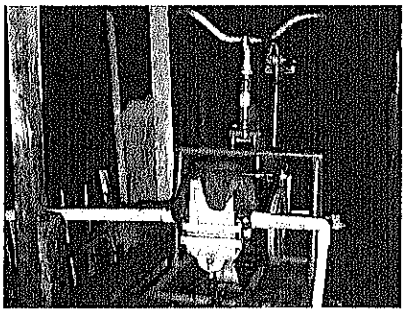
「貧富」の差や「南北格差」を疑似体験できるプログラム。貿易の疑似体験を通じて、フェアトレードの概念を学習する。(写真⑪参照)

【19時間】「道徳」との関連

「道徳」の授業としては、未熟なところもあり、反省点も多い。指導案と違う流れにしてしまったし、中心発問

写真⑦:「心のノート」に見入る児童

写真⑧水くみの少女の写真


写真⑨自転車ポンプの写真

写真⑩ワールドキャラバンの様子

写真⑪貿易ゲームの様子

はあれでよかったのか？　しゃべりすぎ……そんな気もした。とはいえ、ねらいに近づけた実感はある。

押しつけでない本当の支援・援助とは何か？「大人」も解決できていない国際支援の大きな問題だが、その「基礎基本」とも言うべき、「相手の見方考え方、気持ち」を尊重する態度は、一応、身につけた児童もいた。そうした思いを胸に「総合的な学習の時間」でも活動することで、さらに活動の向こうに相手を意識することができる。心の通う交流や、心のこもったボランティアが可能になるだろう。

[20～21時間] 私たちに何ができるか？（ガイダンス）

大きく「ふれあいグループ（国際交流）」「助け合いグループ（国際協力）」にわけ、どのような活動がしたいか？どのような学習が必要か？どのような活動が可能かを話し合い、いくつかの活動グループを立ち上げた。

[22～24時間] 予備調査

前時に話し合った内容を元に、それぞれの活動について、活動の計画や見通しを立てるための予備調査を行った。ここで協力団体を調べたり、先行事例などから、活動計画を立てた。

予備調査の段階で「ラオスに絵本を送る活動グループ」「自分たちで絵本を作って送る活動グループ」は、活動の見通しが立たずに、解散し、他のグループに合流した。ここでの支援が、活動の成否に大きく影響したと考えられる。振り返りと充分な支援が出来ていなかったようにも思う。調べ学習をしたり、協力団体を探したり、学校長に許可を取りに行ったりと、活動が広範で、支援が不十分になってしまった。

[25～34時間] 個別活動・ふりかえり

・スタディノートを活用しての交流・共同学習。活動報告会・自己評価活動（一部のグループ活動のみ掲載）

[小物を作るグループ]

つくば市のNPO「やしの実の会」のご協力を得て活動をした。フィリピンのスラムの子ども達を支援している「やしの実の会」とメール交換をして、「やしの実の会」が行うチャリティーバザーに、「協力したい」と計画を立てた。

巾着袋や小物入れ、手袋、マフラーなどの手芸品をつくって、チャリティーバザーに協力した。「やしの実の会」の手作りケーキなどとともに、チャリティーバザーに並べてもらった。バザー会場が学校から遠いこともあって、バザーには希望者のみ参加だったが、参加者は喜んでいた。（写真⑫⑬）

[学用品・日用品を集める活動グループ]

「自分たちに出来ること」からスタートした活動が、

写真⑫「やしの実会」チャリティーバザー

写真⑬小物作りグループ

すぐ「使っていない物を贈ろう」という発想につながったのは自然な流れであった。しかし、倉庫の確保や運送料の確保などお金のかかることも多く、コーディネートしてくれる団体がすぐには見つからず、活動は暗礁に乗り上げそうであった。「私たちに不要な物は、相手も不要じゃないの？」や「相手の都合」などを深く考えていくうちに、「モノよりお金」という意見も出た。

そうした中で、すでに「協力」の約束を取り付けていた「小物を作るグループ」の活動が、よい刺激になったようだ。「やしの実の会」がフィリピンに直接持っていってくれると聞き、協力をお願いすることにした。「やしの実の会」の会合に参加した私自身から間接的ではあっても、フィリピンのスラムの子ども達の様子も子ども達に伝わり、相手の「顔」の見える活動になったため、活動に勢いがついた。メッセージを添えて、学用品などを届けてもらうことにした。フィリピンの子ども達からもメッセージをもらい、喜んだ。

成果と課題

活動に振り回されている面も感じる。しかし、コンピュータリテラシーやコミュニケーションスキルの向上もさることながら、心のこもったふれあい、あえて言うなら、コミュニケーションマインドの向上や心の通ったボランティア活動になり、ボランティアスピリッツを育てることができそうな勇気がわいてきている。これも、「道徳教育」を中核に意識して指導してきているからだと自負している。個々の活動のつながりが、持てなかった点については、学年掲示板や校内電子掲示板スタディノートを活用して共有化を図ったり、定期的に情報交換会を開くなど工夫したが、全体的にまとまりに欠けた。学年全体の単元にしたが、学級化をはかる必要もあったと思う。

参加動機およびプロフィール

開発途上国の現状に直に触れ、「総合的な学習の時間」の「国際理解教育」の現場に生かしていきたいと思い、教師海外研修へ応募しました。研修では任国の文化生活、社会事情はもとより、教育事情に触れ、よりよい国際交流のあり方や国際理解教育に役立つ自らの資質の向上をはかりたいと思っています。一昨年度はNPO法人「世界子どもネット」や「ユニセフ」水戸の会のご協力をいただき、総合的な学習の時間の主任として校内国際理解教育の充実に努力してきました。

資料1 25～32時限　個別活動　活動内容の一覧

	グループ名	活動内容	協力団体等	活動の内容
助け合いコース	プルタブリングプルをあつめるグループ	現在行っているプルタブ集めの活動を引き継ぐ。	リングプル再生ネットワーク：佐川急便 校内ボランティア委員会	プルタブを集めて換金し、車いすを海外に寄付しよう。 ・ポスターを作って呼びかける。 ・全校の協力を得て、すいぶん集まった。地域の方や地域のスーパーマーケットにも協力をしてもらう。活動は継続中。
	アルミ缶回収グループ	アルミ缶を回収し、ボランティア団体に送り役立てる	NSカーゴ 校内ボランティア委員会	空き缶を集めて換金し、車いすを海外に寄付しよう。 ・休み時間も利用して、空き缶をつぶす。 ・全校の協力を得て、すいぶん集まった。一度換金、活動継続中。
	回収グループ：書き損じはがきグループ	書き損じハガキを回収し、ボランティア団体に送り役立てる	NPO世界子どもネット（東京・石岡市）	・NPO世界の子どもネットにメールを送った。 ・HPにもアクセス。 ・返事も来たよ…ワクチンを買うそうだ。小さな子どもたちの予防接種（ワクチン）に使われるよ。 ・回収協力のためのPRの方法を考えて、いろいろ工夫した。地域の人やPTAの人たちに、協力をお願いも計画。
	回収グループ：使用済み切手グループ	切手を回収し、ボランティア団体に送り役立てる		
	回収グループ：テレホンカードグループ	テレホンカードを回収し、ボランティア団体に送る	NPO世界子どもネット	
	学用品・日用品を集める活動グループ	学用品・日用品を集め、フィリピン人の支援を行っているNPOに自分たちで集めたものを売ってもらう。	NPO やしの実の会（つくば市）	学用品・日用品を集め、フィリピン人の支援を行っているNPOに自分たちで集めたものを売ってもらう。また、フィリピンのスラムの子どもたちに届けてもらう。 1月にやしの実の会を通じて、フィリピンのスラムの子どもたちに直接手渡すことが出来、返事の手紙をもらう。
	小物を作るグループ	フィリピンのスラムの人々の支援を行っているNPOに自分たちで作った小物を売ってもらう。	NPO やしの実の会（つくば市）	12月8・15日にフリーマーケットに出品。希望者がフリマにも参加。収益金は、やしの実の会を通じて、フィリピンのスラムの子どもたちのために活用され、お礼の手紙や記念品をもらう。
	みんなに知らせるグループ	ユニセフ・JICAなどの活動をみんなに知らせたい	校内ボランティア委員会	資料やHPで調べて、校内電子掲示板スタディノートにまとめ、校内に伝えた。 クラスでは、ORS（経口補水塩）を自作し、クラスメイトに試飲してもらい、ユニセフの活動のPRを行った。
ふれあいコース	グループ名	活動内容	協力団体等	活動の内容
	学校紹介の写真を撮る	学校紹介の写真を撮る		・交流用の学校紹介の写真を撮る。
	フィラデルフィアの学校と交流しよう	フィラデルフィアのチャータースクールの子どもたちとの交流	NPO世界子どもネット（東京・石岡市）	世界子どもネットの支援のもと、フィラデルフィアのチャータースクールの子どもたちとの交流。 継続中。
	メール交流：上海日本人学校と交流	上海日本人学校の子どもたちとの交流	上海日本人学校	スタディノートを活用してのメール交流。 上海日本人学校との交流は不調に終わるが、リオデジャネイロ日本人学校の子どもたちとの交流や海外の卒業生とメール交流は、継続中。
	メール交流：リオデジャネイロ日本人学校と交流	リオデジャネイロ日本人学校の子どもたちとの交流	リオデジャネイロ日本人学校	
	メール交流：海外の卒業生とメール交流	相馬香織さんとメール	相馬香織さん 卒業生	
	町の中の外国を知ろう	身の回りのもの原産国調べ	丸茂ストアーなど	・チラシの活用・原材料調べ。 ・お店を訪問。インタビューをとって、校内電子掲示板や活動報告会で報告。
		外国料理店・外国人向け店舗調べ		
	サッカーは世界の言葉	サッカー交流会	町内の外国人（ブラジル）	校長先生の許可を自らの交渉で取り付け、チラシもできあがり、いよいよ人集め。 でも、折からのインフルエンザやゲストの都合が折り合わずに順延続き。3月中に最後の計画を立てた。
	外国の人に千代田町を知ってもらおう	外国人向けガイドパンフレットの作成	千代田町役場	観光パンフレットの翻訳（英語・ローマ字に表記） 単語の翻訳のみ。文章の翻訳は、行わなかった。

その時、3組が動いた！
～私たちはラオスを支援します～

矢島一彦 YAJIMA KAZUHIKO
八王子市立第十小学校（東京都）

◎実践教科　社会／総合的な学習の時間
◎時 間 数　75時間
◎対象学年　6年　　◎対象人数　29名

◎◎ カリキュラム ◎◎

実践の目的

ラオスに到着

【教師の願いから】
昨年夏、担任がJICAの研修でラオスを訪問した。この国は人の心は素晴らしく、ステキな国であるが、医療面での遅れから子どもの死亡率が高かったり、平均寿命が短かったりという実態がある。また、子どもの人数の関係から日本人学校が作れず、ようやく作れた「日本語補習校」では補助教材が足りないという実態もある。

担任は「この様な実態のある国をテーマにして総合ができないか」と様々な角度から検討した。何とか、テーマとして扱えると判断し、その構想を立てた。

子どもたちがラオスの様々なことについて調べ、ラオスをよく知る人とかかわり、それをもとにラオスへの援助を考えるような筋道をたどれば、ラオスという国やそこに住む人々への理解が深まるだけでなく、総合的な学習の時間の目標を達成できるのではないかと考えたのである。

【子どもの願いから】
5年生の時に「アメリカ不思議発見」や「十小味噌」の活動に取り組んだことで、楽しかった経験をしている。しかし、「5年生の時にできなかった、地域に出て行う取材や行商をぜひやりたい」という気持ちが強い。

ラオスの小学生と

ラオスへの取り組みは、「担任の仕掛け」に子どもが見事に答えてくれた結果であり、担任がやりたくて子どもにさせたものではない。自然に子どもから出てきた「ラオスを支援しようという声」に従って、多くの子どもが行動を起こしたものである。

みんなで何かをした後の成就感を再び味わいたい。特に3組が得意な「ポスターセッション的な発表」を多用して、多くの人たちに伝えたいというのが子どもたちの願いである。

【特色ある教育活動の実態から】
第十小学校は国際理解教育に取り組んでいる学校として知られている。事実、毎年1学期にはアメリカからMaster Teacher Programで派遣された教師が1ヶ月間滞在して授業をしたり、交流をしたりする。また、学区にはJICAの八王子国際センターがあり、その研修生を毎年招いて交流している。他にも、国際交流学院との連携で、6年生が中国人留学生と交流

し、中国語を学んでいたりもする。さらには、NGO「八王子アクティブライン」の協力で、多くの外国人（ゲストティーチャー）を招いて、総合的な学習の時間に取り組んでいる。

【自ら課題を設定する態度・能力】

○十分な時間を使って、ラオスについて必要な情報を集め、興味・関心を広げた後、検討して自分の思いにふさわしい課題を見通しをもって設定しようとする。

○ラオスという国やそこに住む人々に興味・関心をもつことができる。

【課題に対して最後まで取り組む態度・能力】

○様々にあふれ出るラオスへの思いや疑問に対して追究していこうとする。

○身近な地域に取材に出たり、人材を招いて聞き取りを行ったりするなど、取材の基本を学び、情報収集・整理ができる。

【表現しコミュニケーションする態度能力】

○ラオス語のあいさつに親しみ、人とかかわる時に役立てようとする。

○今までの『総合』の経験を生かし、集めた資料から、まとめに必要な情報を選び、情報を仲間と相談しながら再構成して発表用の資料を作ることができる。

○ラオスとかかわりのある人の気持ちを考え、話をしたり活動したりできる。

【人とかかわる態度・能力】

○どのような支援が大切なのかを自分の活動から振り返り、学んだことを次の学習に生かそうとする。

○課題解決に向けて、外国の人や友達の考えと比べたり関連づけたりしながら、自分なりに考えを深めることができる。

授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～10時限 ラオスと仲良くなる時間		・ラオスで撮影したビデオ ・ラオスで撮影した写真
11～25時限 課題追究1 予備調査と話し合い 各自でテーマを設定し追究	・予備調査を行う。 ・ウェビングの手法を用いて、それぞれが取り組むテーマを出し合っていく。同一のキーワードの元に、1人1人異なるテーマに取り組む。	・ウェビング ・模造紙
26～31時限 中間発表会	・発表会準備。 ・ポスターセッション的発表会を行う。	
31～54時限 追究2 最終目標の設定及び追究	・再び、ウェビングを行いながら、今後の学習をどう進めていくのか、深めていくテーマ決定に取り組む。 ・ラオスとの共通点である和紙を漉く。 ・うちわを作る。	・ウェビング ・模造紙
55～59時限 追究3	・うちわ販売、ラオス支援のための活動を行う。 ・グループ毎にデザインや色などに工夫を凝らして取り組む。	・楮、つなぎ（ホテイアオイの代用品。科学的に作られている）、簀（す）、けた（和紙をすく道具）、大きなたらい、たたき棒、染色用品、プリントゴッコ等
60～64時限 授業研究及び追究	・うちわ販売リハーサルと準備。	

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
65～71時限 保護者向けた販売販売及び追究	・アンテナショップとして保護者に販売。販売後は、反省の振り返りを行い、地域への働きかけの際に改善を行う。	
72～73時限 地域に向けた販売活動	・地域の人へ働きかけ、大型家電店店頭にて行商を行う。	
74～75時限 活動の反省	・ふりかえり。自己評価も行う。	
76～85時限 ラオスへの支援活動	・売上金の集金作業。 ・ラオスへ送る荷物の荷作り。	

授業の詳細

(1) 学級全体の意欲をみる

質問「今の活動に興味がありますか？」

①ラオスという国名に戸惑う。興味のない子どもが3分の1以上。当然の結果である。

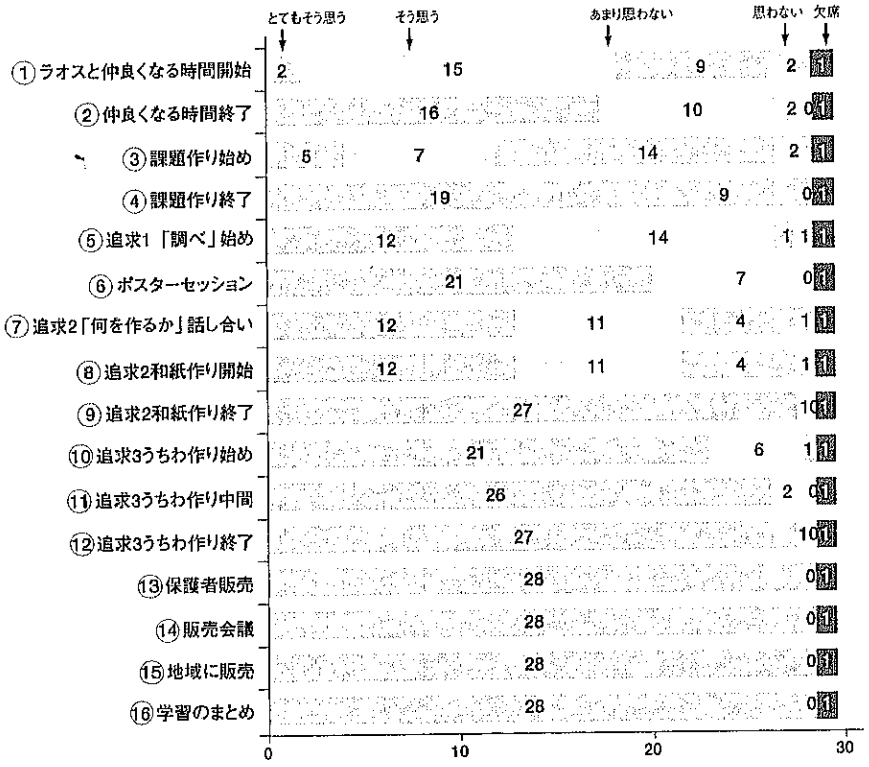
②10時間の学習を終えて、2名を除き興味をもつ。2名の理由「ラオスは面白いが他にもしたいことがある」

③半数の子どもが「あまり思わない」。これは課題が決まらないことから来ている。

④19名が満足のいく自分の課題を見つける。残りは、はっきりしないか複数の課題を選びかねている。

平成14年9月～平成15年3月までの子どもたちの意欲の推移

質問「今の活動に興味がありますか？」



(表内の①②…は、文中の①、②…に対応している。)

⑤調べ始めたが、思うような資料が見つからない子どもが多い。ラオスの協力隊員や専門家の方々に問い合わせるが、メールが来ない日々が続く。意欲を失った子どもが一人。(後述)

⑥学芸会のため調べが中断。ラオス学習復活と得意の発表形式に意欲を見せる。

⑦学習が一段落。新たな方向を探る。和紙作り22名、セパタクローボール作り（セパ）5名。両方に取り組むことで決着。少数派のセパは納得がいかない。

⑧作り方を調べて数日。セパ派は懸命に調べたが材料や教えてくれる人がいないことを理由に和紙作りに合流。諦めてスタートする。

⑨和紙作りは教師の予想をはるかに超えて興味・関心を持続させた。この活動の目的がぼけてしまいそうなので「この活動と自分たちがしようとしている支援との関係」を忘れないように釘を刺す。

⑩材料や道具はほとんど自分たちで集めてくる。意欲は万全。ただ一人意欲を失った子どもあり。(後述)

⑪作業に入ると誰もやめようとしない。24日に合わせての作業なのでやや疲れ気味。残すはチャリティー販売に向けての説明文を作ることとその練習。

⑫B4大の大きさの和紙250枚から120本のうちわが完成。「一本いくらで売れるか」と話題騒然。

⑬リハーサルで「支援」という言葉の定義を巡って外部からクレームがつく。しかし、何くそ！という気持ちで克服する。

⑭保護者向け販売の反省を経て、よりよい発表の仕方・売り方を話し合う。意欲は全く衰えず。活動が新聞に掲載される。

⑮八王子最大級の家電店のイベント会場をお借りして地域販売を実施。127,000円余りの募金を集める。

⑯6ヶ月間の活動の反省を行う。「もっとやりたい」という言葉を残し、終了する。募金はラオス支援に。

(2) A君の“共に生き心を伝え合う”姿

Ⅰ⇨ラオスを支援する学習を順調にスタートさせたA君は意欲も高まっていった。A君は「仲良くなる時間」を終えて、自分が取り組みたいことを見付けたものの、資料がなかなか見つからなかった。ここでA君の意欲は急激に下がっていった。担任から「協力隊の人にメールで聞いてみれば？」と助言され、仲間とともにメールを送って返事を待っていた。その返事がA君の考えを変え意欲も回復していった。自分の体験をもとに、ラオスの協力隊の人の気持ちに共感したり関連づけたりできたのである。

○ラオスとかかわりのある人の気持ちを考え、話をしたり活動したりすることができる。(グラフのⅠ)

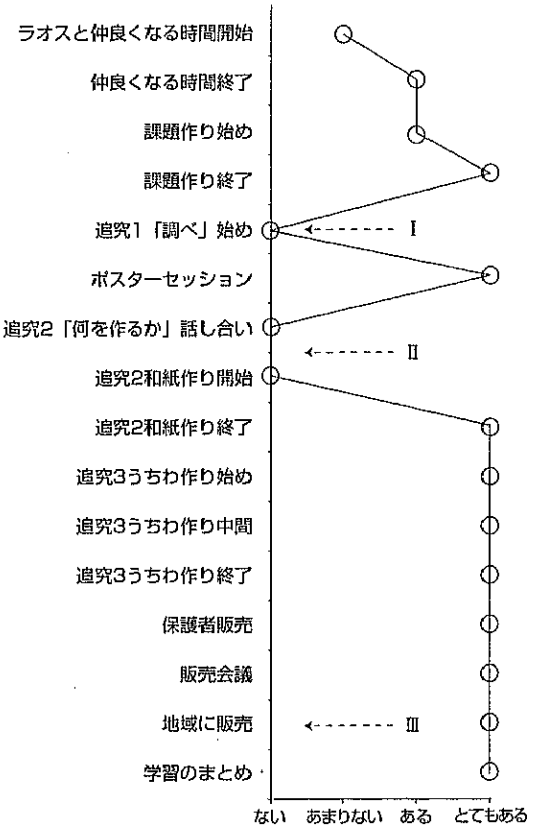
○課題解決に向けて、外国の人や友達の考えと比べたり関連づけたりしながら、自分なりに考えを深めることができる。

のきっかけになったことは確実である。

Ⅱ⇨A君は追究2の時にも一時意欲をなくしている。A君はスポーツが好きなので、どうしてもセパタクローのボールを作りたかったのである。A君は数人の同士と共に取り組もうとした。(グラフのⅡ)

担任も「困ったら相談に乗るよ」と声をかけていた。しかし、A君は「竹が集まらない。荷物を縛る幅の広

A君の意欲の推移



いひもを使ってできないかとも考えた。でも、編み方を教えてもらわないとできないし、時間がかかり過ぎる。」と言ってセパタクローのボール作りから、和紙作りに方向転換したのである。

この後のA君は、「興味・関心」が「あまりない」から徐々に上り始め、和紙を漉く頃からは「とてもある」と言えるまでに高まっていった。

その後の活動は順調で、意欲が全く下がっていないことがグラフからわかる。

最後に、地域に売りに行った際のA君の感想に注目したい。

Ⅲ⇨「(略) うちわの販売以外に募金もしてもらったのですが、その時、小銭入れの中に入っているお金を全部入れてくれた人がいました。その時に、僕は「その人は本気でラオスを支援したいんだなあ」と思いました。その支援してくれた人の気持ちをラオスの人に伝えるのも僕たちの仕事です。なので、最後までしっかりやろうと思いました。(後略)」(グラフのⅢ)

この文章の中にも、「ラオスとかかわりのある人の気持ちを考え、話をしたり活動したりすることができる」という今回の活動のねらいに近づいた姿が見られる。

このように、地域の人たちやまわりの友達と一緒に協力して行動し、協力隊の人に共感できた活動は、A君にとっては、ラオスという国やそこに住む人々、自分自身や身近な地域に住む人々への見方を変えるきっかけとなったのは疑うことができないのではないだろうか。

(略) そのメールによると、「ラオスの言葉のことで困っている」ということが書いてありました。でも、その文には「自分で言ったラオス語が通じるとうれしい」ということも書いてありました。この文を読んで、ふっと思い出したのは、1ヶ月と少し前くらいにアメリカのオレゴン州に行ってホームステイしたときのことです。よく考えてみると、確かにあの時は英語に困ったけど、自分で言った英語が通じたときはうれしかったです。このことで僕は、行った場所は違うけど、アメリカに行ったときのことを生かせば分かることも出てくるのではないかと思いました。

そうやって考えてみると、今みたいにメールを打っているだけでもけっこうNさんや他の協力隊の人を元気にしていると思います。アメリカにいるときは、日本語を読めるときや話せるときには元気がわいてきました。(中略) ここに書いたことは全部、僕がアメリカに実際に行ってきて実感したことだから何か役に立つかもしれないので、アメリカに行ってきたときのことを整理してやっていけばいいと思います。

(A君の班ノートの記述から抜粋)

(3) Bさんの“共に生き心を伝え合う”姿

Ⅰ⇨Bさんはどのようなことにも前向きに取り組んでいる。今回のラオスの学習でも追究1で取り組みたいことが決まってからは、とても充実した学習をしてきた。山梨ラオス友好協会に、自分が取り組んでいることについてメールを送って問い合わせをしたり、担任が撮ってきたビデオをもう一度見て、ポスターセッション的な発表会で使ったりと行動的な面ももっていた。(グラフのⅠ)

学習は順調に運び、和紙作りを経て「うちわ作り」に入ったときだった。Bさんにとって大きな試練が訪れた。全てが順調に運んできたBさんにとってはショックが大きかったに違いない。そのことをBさんは次ページのように書いている。

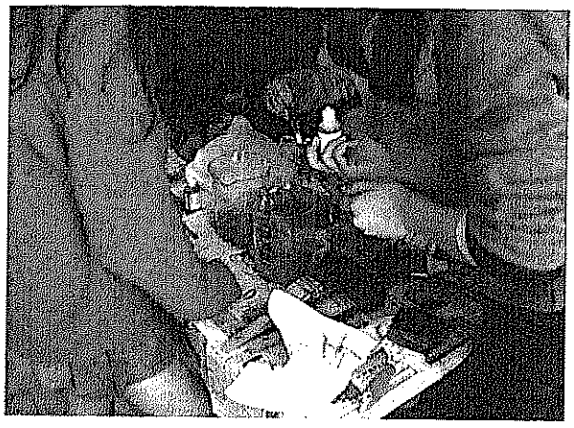
担任はすぐにBさんともう一人の子を呼び、グループの様子を聞いた。訴えられた2人の男子はそんなにひどいことをする子どもではないので、「翌日、自分たちの思いを2人に伝えてわかってもらうことが必要」と助言した。

翌日、このグループは話し合いをもち、自分たちの思いを言い合った。Bさんの思いはうまく相手に伝わり、2人の男子の思いも理解することができた。2人の男子はこの後、自分たちだけの行動をしなくなった。

そればかりか、材料の買い物に一緒に行くようになり、Bさんの意欲は「とてもある」に戻った。このような友だちとのトラブルを通して、子供たちは「相手の気持ちを考えながら会話をしたり、行動を共にしたり」「表現する相手に応じて、より効果的な方法を考えて伝えようとしたり」「相手の考えによく耳を傾け、正しく受け止めるられたり」「自分の言葉で伝えることができたり」することを必要に迫られて身に付けて

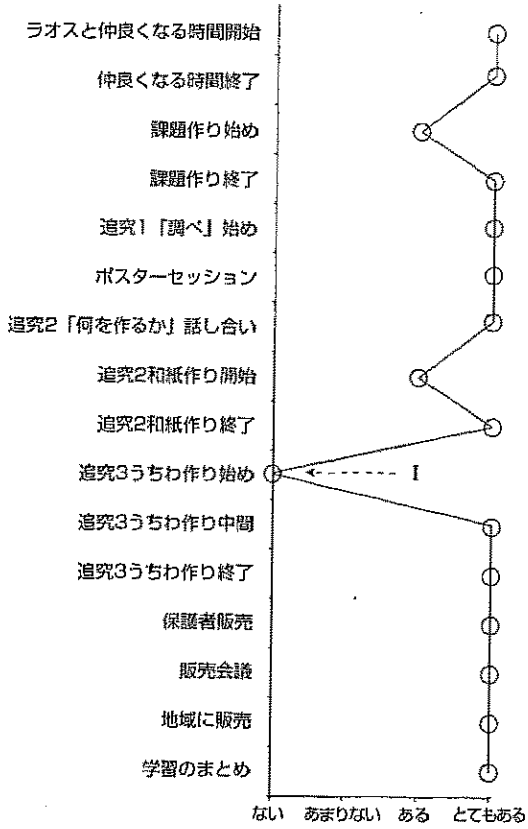
いくのである。

> 私はもうこのグループがいやになってしまいました。私たちのグループは4人ですが、男子の2人が他のグループの男子とばかり行動しています。昨日も私たちには何も言わずに、他の男子と材料の買い物に行ったようです。総合の時間の時にも、自分たちで考えたことを相談もしないまま、始めたりします。こんなことでは一緒にやっている意味がないので、いやになりました。
>
> 先生、この2人に何とか言ってやって下さい。今日も○○たちと材料の買い物に行きました。とってもいやです！
>
> (B子さんの自己評価の記述から)



和紙の染め方を研究する（写真はBさんではありません）

Bさんの意欲の推移



成果と課題

(1) 意欲を持続させるための戦術

①ラオスに対する興味・関心をもたせる

『ラオス人民民主共和国』は日本人にとって、あまりなじみの無い国である。このような国を学習の対象にする場合、この国の特徴的な点、または特異な点・日本との共通点や相違点などを取り上げて学習するのは有効である。今回の「ラオスと仲よくなる時間」(10時間）によって、子どもたちはラオスに対して非常に興味・関心をもつようになった。

これがラオスの学習のきっかけとなった「ラオスと仲よくなる時間」の計画である。このような学習を設定し、ラオスの様子を知ることが興味・関心をふくらますきっかけとなる。国際理解の第一歩は、その国またはその国の人に対して興味・関心をもたせることである。子どもたちが興味・関心をもつような「人・もの・こと」を提示して学習のきっかけとすることは非常に効果が高いことが確認できた。

②その国にかかわる人々と直接又は間接のかかわりをもたせる

今回の活動では、なかなか人との直接のかかわりをもたせることができなかった。山梨ラオス友好協会のNさんに来て頂くことになっていたが、双方の都合が合わずに断念せざるを得なかった。しかし、ラオス在住の青年海外協力隊員のNさん・Fさん・Yさん、日本語補習校の校長先生であるS先生と子どもたちは、

電子メールを通して間接的ではあるが、繰り返しかかわり情報のやり取りをしていた。

このような人々とのかかわりが、子どもたちの興味・関心を持続させるのである。また、メールを書くことで、手紙の書き方・挨拶の仕方・言葉の使い方など、人とかかわる基本的な技能を学んでいる。

さらには、7ページのA君のように、協力隊の人から来たメールの内容を読んで、自分の経験と照らし合わせ、相手の気持ちを共感的に理解できるようになっていることは非常に興味深い。人とのかかわりを設定する方が、国際理解が深まると言えるであろう。

③ラオスに対する見方の変化を促す

「ラオスと仲よくなる時間」で、この国の特徴的な点、または特異な点・日本との共通点や相違点などを学習していくと、どうしても“日本が優位に立つ”ような考えが芽生える。意図的に内容を設定したわけではないのだが、偏った見方が生まれてこないとも限らない。国際理解教育で「ステレオタイプ」を生み出すことは是非とも避けたい。

そこで、ラオスに伝統的に残っている『バーシー』という習慣を取り上げた。この習慣は日本ではなかなか会うことのできない人への思いやり・優しさ・いたわりで満ちあふれている。この心の温まる習慣を学習した子どもたちは、早速アメリカに短期留学する仲間の出発に際して、『バーシー』を行い、送り出した。

バーシーで送られた子どもたちはアメリカに行っても、腕に巻いてもらったひもを外そうとはしなかったそうだ。

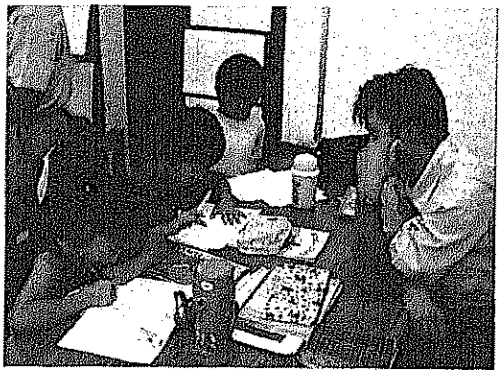
このように見方の変化を促すような学習を設定することは国際理解を深める重要なポイントとなることはまちがいない。

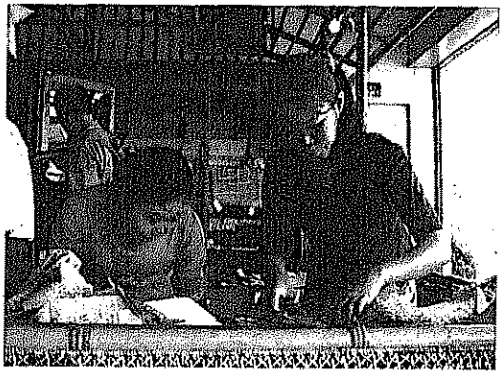
④ラオスは総合的な学習の時間のテーマになりうるか

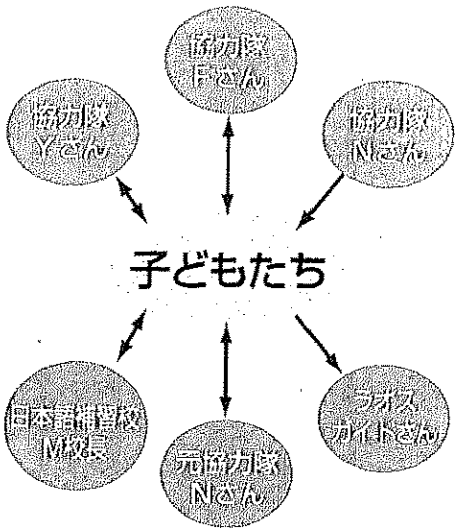
以上の①～③の視点から考察した結果「ラオスは総合的な学習の時間のテーマとして充分に使える」と結論してよい。①～③は教材化の視点でもあるので、こ

「ラオスと仲よくなる時間」の構成

時限	ラオスと仲良くなる項目	内　容
1時限	どこにある？　人口は？ 広さは？　その他いろいろ	ラオスの人口、面積、首都、言語、主食など、ラオスに関する様々な事柄
2時限	バンコクとヴィエンチャン 隣り同士の国の首都を見る！	ラオスの首都ヴィエンチャンと、隣の国タイの首都バンコクの様子
3時限	ラオス料理を目でいただく！	ラオス料理を食べる日本人の様子からの材料や味の想像
4時限	びっくり！　ラオスの輸出品 しっとり！　ラオスの産業	巨大なダムから流れ出る水……輸出品は電力 土佐和紙の技術から生まれた「ラオス紙布織り」
5時限	ラオスにいる日本の子ども	在ラオス日本語補習校の子どもの様子・教材の不足
6時限	首都ヴィエンチャンの小学校を訪ねる	首都の中心部に位置する小学校の施設の現状
7時限	ラオスの子どもたちがうたう歌	ラオスの子どもたちが披露してくれた「爆弾（不発弾）を見付けたら村の村長さんに届けましょう」という内容の歌（ベトナム戦争のツメ跡）
8時限	モン族のマーケットで出会った17歳のお母さん	ラオスの平均寿命は54歳 子どもが二人もいる17歳のお母さん　保健・衛生事情
9時限	門出の時に幸せを願う「バーシー」とは？	バーシーとは何か？ 実際のバーシーをビデオで見る
10時限	日本のお兄さん、お姉さん、おじさん、おばさんの活躍	ラオスで活躍する青年海外協力隊・シニアボランティア・専門家


ラオス日本語補習校の学習


紙布織を売るラオスの女性



ラオスの学習で子どもたちにかかわった人々

れらの点を充分にクリアしていると考えてよい。

ラオスに限らず、多くの教員はこのような教材となりうるものをもっているはずである。それを教材化し子どもと共に追究していくのは、非常に楽しいものである。自らの教材を開発されることを私は切に願っている。

(2) 意欲を持続させるための戦略

①子どもたちの願いとの関係

この学習を設定した理由を思い出していただきたい。子どもの願いの中に「地域に出て活動してみたい」ということがあった。これを最大限に生かすとすれば、できるだけ最終目標付近に地域に出て活動する内容を設定した方が意欲は持続する。

しかし、子ども自身が望んだこととは言え、余りにもはるか彼方にあると意欲は萎えてしまう。

そこで、授業の構成にあるように、小刻みに小さな目標となるものを設けて、子どもたちはそれを励みに活動を続けていくような計画を立てることを考えてみた。

子どもたちは「一つの山を越えると次の山が出てくる」という形で、活動が継続していくのである。一つ二つと乗り越えていき、知らず知らずのうちに最終のゴールに近づいていくので、意欲は常に続いているのである。

②教師の願いとの関係

教師には、学習に対して興味・関心をもって取り組んでほしいという願いがある。また、自分で問題を設定し解決できるようになってほしいし、人とのかかわ

バーシーは人生の節目に行われ、健康を祈って手首にひもを巻く

りの中で、友だちや地域の人、外国の人などと共に生きている実感をつかんでほしいとも考えている。

かかわる過程でコミュニケーションする力も身に付けてほしいとも考えている。

このような願いの実現に向けて、育てたい力を身に付けられるような活動を配置し、子どもたちの願いと絡めて実践していくことがいかに重要であるかを思い知らされた今回の学習であった。

③事前の「総合的な学習の時間」の構想の重要性

「総合的な学習の時間」は事前の「構想」と「予想される活動の流れ」をもとに活動が始まる。そして、「実際の活動の流れ」ができていく。事前の構想や予想が、子どもの意外な行動にいち早く対応させ、活動を活性化していく。この3点セットも、意欲を持続させ、成功へと導く戦略なのではないだろうか。

> こんな楽しい活動をしてきて、しかも最後に人の役に立てるなんて僕はとても幸せです。こういう活動なら何回でもやりたいです……。（後略）
>
> A男の斑ノートから

(3) ラオスへの支援

6年3組の子どもたちがうちわ作りで集めたお金は、目標額を大きく上回る約12万7千円あまりであった。このお金を見た子どもたちは「これで、日本語補習校に教材を送れるし、ラオスの人たちを何人かでも助けられる」と、大変に喜んでいた。

3組の子どもたちが卒業する数週間前に、ヴィエンチャンの日本語補習校には、ドリルやワークテスト・資料集などの教材を送ることができた。このお礼にと、日本語補習校から送られてきたラオスのペンケースをもらって、3組の一人一人の顔は輝いていた。

6年3組の子どもたちが卒業してから、残りの12万円あまりの使途について、元協力隊員でルアンパバン県立病院の看護士だったYさんと、数えきれないくらいにEメールをやり取りをして相談した。

Yさんは、親身になって相談に乗ってくださった。

ラオスの子どもたちとのお別れパーティー

はじめは、機材の寄付という話だったが、2003年6月8日のメールに思いも寄らないことが書かれていて驚いた。そのメールには「タダの援助で終わってしまう恐れがあるから、機材の供与はやめましょう。私はずっと前からやりたかったことがあるんですよ。」という前置きに加えて、「それは子どもたちの検便と駆虫です。ラオスでは80～90%の子どもに寄生虫がいます。時にはひどいわるさをして、病院にかつぎこまれる事態になりかねません。防げる病気がいくつもあるのに、知識がないために防げず、重症化する。何度も、悪循環な実態を見てきました。それで、いつか、子どもたちに駆虫をしてやりたい、と思っていました。で、それに併せて、病院でやっているような衛生教育を村でもしたいと思ってました。予防から始まる、保健医療のレベル向上だと強く思います。隊員時代からの希望でしたが、隊員レベルでは無理でした。前から夢でした。私にはお金の使い道がこれしか思い浮かばなく、これがすべてです。もう、決めました。うんこプロジェクトです。」と自信に溢れた文章で綴られていた。

この3ヶ月後に、Yさんはお勤めの病院をお休みして、自費でラオスに行ってくださった。6年3組の12万円余りのお金はラオスの子どもたちのために役立ったのである。これについての大まかな内容は、右の「Yさんから3組の子どもに宛てた報告書」をご覧いただきたい。これを読んだ子どもたちが感激したのは言うまでもない。

目的は子ども達の検便、寄生虫の駆虫、そして衛生教育でした。私が青年海外協力隊として活動した2年間において、寄生虫が原因で重病（腸に穴が開いたり、腸に虫がつまったり）にかかり、時には命を落とす子どももいました。そこで、私はなんとか、予防ができれば、こんな重病にならず、健康な生活が送れるのに……と悔しい思いばかりしていました。正しい知識があれば予防ができます。また早期発見により、重症になる前に簡単に駆除ができる病気です。何も命を落とす必要はないのです。

そんな思いで活動していましたが、協力隊という限られた枠の中では、こういった活動は不可能でした。できる事は病院での衛生教育だけでした。そこで、まだラオスの保健に思いを残しながら2002年12月に帰国してきたのですが、矢島先生の方からとても素敵なお話がありました。みなさんの「ラオスの子ども達を助けたい」という暖かい気持ちがほんとうに嬉しかったです。

何に使おうか、色々考えました。日本に帰ってきて、新しい仕事も始めていたので、なかなか大きな事はできないと思い、何か診療用具を贈ることが精一杯かと考えていました。しかし、職場の協力も得られ、11日間という夏休みを頂く事ができ、今回の計画を進めていきました。後任の看護師のKさん、臨床検査技師のKさん、そして多くのラオス人スタッフの協力を得て、今回の計画を実行してきました。

結果、3日間3郡を周り、6つの小中学校で合計1200個のケースを配布しました。うち翌日排便があった697人の検便を行い、陽性率（何らかの寄生虫を持っていた子供）は640人、実に91．8%が感染していました。そのうち374人の子供が複数の寄生虫を飼っていました。

陽性だった子どもにはもちろん、駆虫剤を飲ませる必要がありますが、その日に排便がなく、検査できなかった子どもに関しても、同じ様に駆虫剤を飲ませる事にしました。想像以上に高確率でしたので、この結果からも一斉投与が適当であろうと考えました。副作用が少なく身体への吸収率が悪い薬ですので、たとえ、陰性者に飲ませてもなんら問題はないということです。よって、約1200人の子どもに駆虫薬を配る事になりました。（後略）

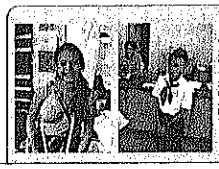
Yさんから3組にあてて書かれた報告書（一部抜粋）

資料1 6年「総合的な学習の時間」の構想

学習のきっかけ

- 5年生の時に「アメリカ不思議発見」で失敗した経験（悔しかった，次は取材に出たい，本を作って売りたかった，など）
- みんなで何かをした後の成就感を再び味わいたいこと。(みんなで作りたい)
- 担任のラオスの話（ラオスの日本語補習校ではドリルや問題集が無くて，先生方が作ったもので勉強している）に対して，「これを総合でやろうよ」と意欲を見せた。
- アジアの国をテーマにした総合をしたいと思っていた。夏に行った国であるので情報は最新であり，かかわれる人も大勢いる。非常に有利な学習対象であること。

2学期9月上旬



「小学生海外協力隊」 (50時間)

【目　標】（9月：目標は検討段階だったため現目標とは異なる）
ラオスのさまざまな事物事象に詳しい人々や身近な地域に住む外国の人々の協力を得たり，図書館・コミュニティーセンターなどの施設やコンピューターを活用して情報を集めたりする活動を通して，
①調べたり聞き取りをしたりする能力を身に付ける。
②集めた情報を整理し活用する能力や，活動のまとめを自分なりに表現する能力を身に付ける。
③地域の人や外国の人・協力隊の人と繰り返しかかわりながらラオスへの理解を深めるとともに，日本との共通点や相違点を見出し，自分たちが住んでいる地域さらには自国への理解を深める。
④外国や自国の文化を尊重し，共生・共存できる社会の実現に向けて行動する意識を持つ。

【課題発見の過程】
- 「ラオスと仲良くなる時間（10時間）」を設定。ビデオや協力隊員の話から学習を展開しラオスの現状をつかむ。
- 自分が調べてみたいことを3時間程度予備調査し，解決の見通しについて考えたり相談したりする。この間に「仲良くなる時間」で見たビデオを再び見るなどして，課題の集約化を図る。
- 同じ課題をもつ仲間と相談し，グループの課題を決める。
- グループの課題と同時に「自分の課題」を設定する。

Webbing

【予想される人とのかかわり】
地域に住む人，知識人，ラオスの　　人，ラオス以外の外国の人，青年海外協力隊員，市役所・図書館・市民センターなどの市の施設の人，保護者，材料店の人など

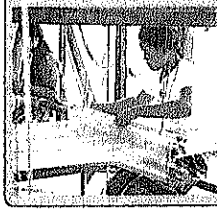
【予想される活動】
- 自分たちがやりたいことに取り組む前に，「ラオス」についての一般的な知識を得る。
- ラオスにかかわる食べ物を作る。
- セパタクローのボールを作る。
- ラオスの人と会う。
- 取材やアンケートのために地域に出て活動する。
- ラオスをよく知る人たちに取材する。
- 青年海外協力隊の人とメール交換をして情報を集める。
- コンピュータを使って調べたり，まとめたりする。
- 学習の成果を形に残す。発表会・試食会・完成祝賀会などを行う。
- できれば形にしたものを，地域に出て売る。収益金はラオス日本語補習校またはセクティラート病院に寄付する。

など

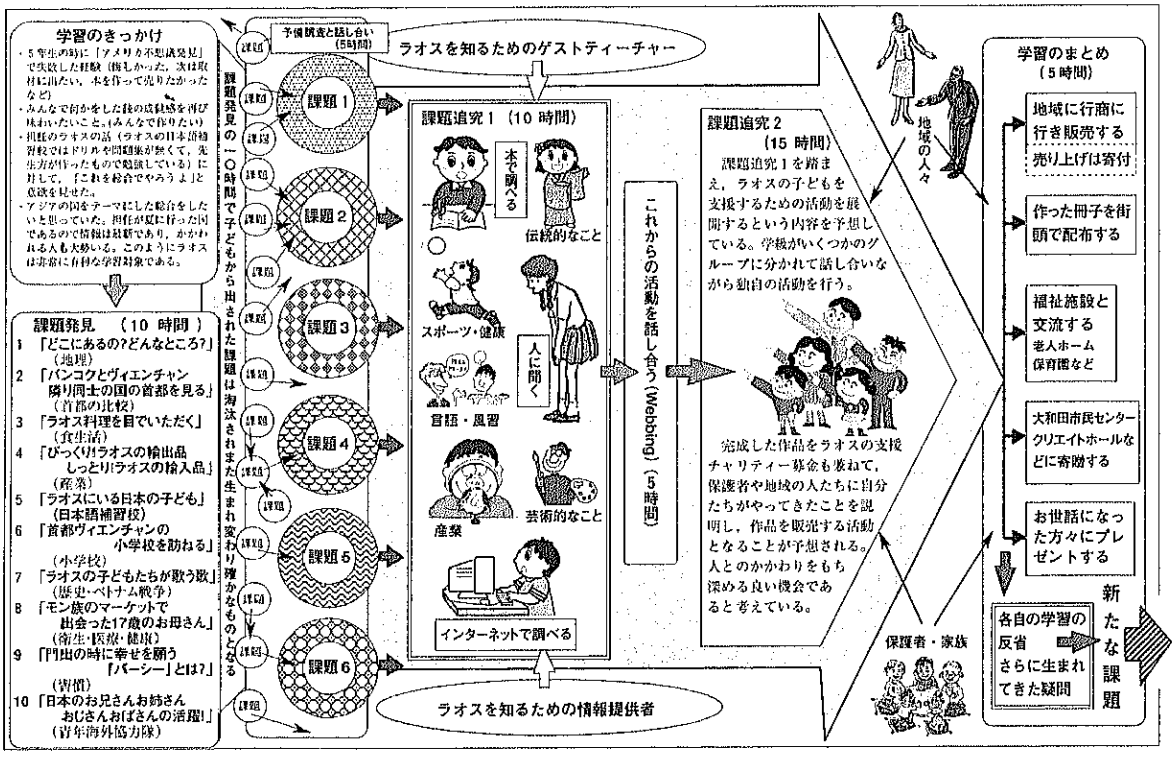
Webbing

【写真】補習校の子供たち

日本語補習校ではドリルや問題集などの周辺資料が乏しくて困っています。日本から送ってもらえると助かります。

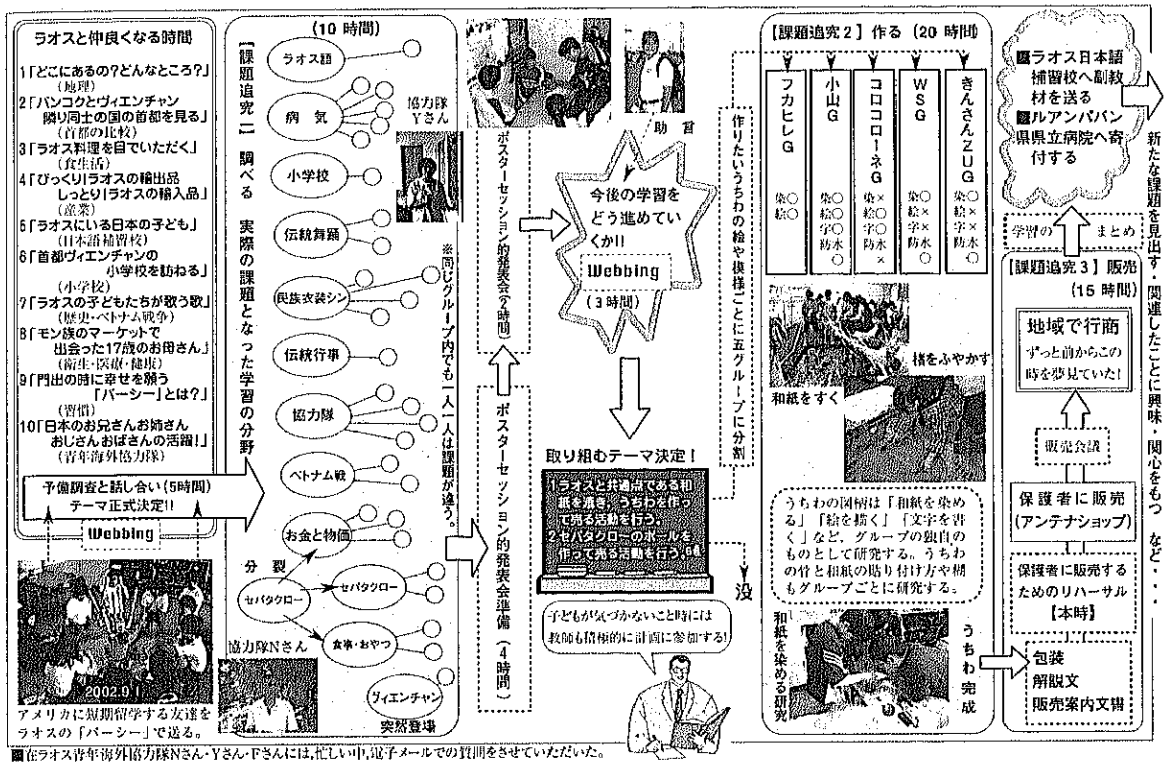

ラオスの織物の技術と日本の工芸用紙の技術を融合させ，ラオスの伝統的織り方にかかわった人たちの関係を考えてみたい。この関係から何かできないか？

資料2 6年「総合的な学習の時間」『小学生海外協力隊』の予想される活動の流れ



資料 3　6年総合的な学習の時間『その時、3組が動いた!～私たちはラオスを支援します～』

実際の活動の流れ



■在ラオス青年海外協力隊Nさん・Yさん・Fさんには、忙しい中、電子メールでの質問をさせていただいた。

■参加動機およびプロフィール

以前、アフリカで働くNGOの女性に取材した際に聞いた「アフリカにエイズが増えた原因の一つは、エイズの恐怖よりもその日を生きることができないことが怖いという人が多いこと。それはアジアも同じではないか」という彼女の言葉がいつまでも心に残っています。私はアジアに住みながらこのことが心に掛かってはいたものの、積極的にアジアと関わろうとしていませんでした。今回教師海外研修に参加することで、自らの長年の課題であった「アジアを知る」をスタートさせることができると考えました。開発教育への取り組みとしては、平成8年度東京都教員研究生として、都立多摩教育研究所で1年間勤務校を離れて研究をまとめ、『国際理解を深める教材の開発と活用』という小冊子にして発表。当時はまだ「総合的な学習の時間」への理解がされていないことが多く、"逆風"が強かったのですが、良き支援者に恵まれました。この頃の実践は何冊かの書籍や雑誌に掲載されました。現任校はもともと国際理解教育を推進している学校で、アメリカの小学校との交流や外国語活動（ALT・近隣大学との連携によるインターシップ、ボランティア）等、年間活動計画と実践が充実しています。現在は、国際理解教育と研究を推進する担当として活動中です。

ガーナを学ぼう

村上浩一 MURAKAMI KOICHI
熊本市立出水南小学校（熊本県）

◎実践教科　クラブ活動（情報クラブ）
◎時 間 数　8時間
◎対象学年　4～6年　　◎対象人数　25名

カリキュラム

実践の目的

・ガーナという国について、どんな国なのか、モノや写真、インターネットを通じて調べることができる。

・ガーナを知ることで、幅広く世界や青年海外協力隊について興味を持たせ、これから世界のことについて考えていこうとする態度を育てる。

授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限　ガーナ国との出会い	・ガーナの位置をアフリカの地図で確認 ・ガーナ国について知っていることは？ ・ノート（紙幣）ランゲージ	・アフリカの白地図 ・ガーナのチョコ ・各種セディ
2時限　コインと写真から	・コインランゲージ ・カカオ豆と太鼓から ・フォトランゲージ	・各種コイン ・現地の太鼓とカカオ豆 ・現地での写真
3時限　カカオ豆から	・クイズ形式でガーナ理解 ・民間放送のビデオ	・民族衣装 ・「ダーツの旅」
4時限　野口英世について	・スタンプランゲージ ・母からの手紙を基に、野口氏について考えていく。	・記念切手 ・トーキングドラムのCD ・「郵政トピックス」
5時限　奴隷貿易について	・教師主導で解説	・マイクロソフトエンカルタ
6～7時限　インターネットにて調べ学習	・各自のテーマで調べ学習（出張にて自習）	・トレードビーズ
8時限　まとめと反省	・アンケート調査	

◉◎ 授業の詳細 ◎◉

1時間 ガーナ国との出会い

発問と指示

- ガーナのチョコレートを食べて下さい。(資料A)
- ガーナという国は、アフリカにあるのですが、どこにあるのですか。地図を配りますので、ここと思う所を赤鉛筆で色を塗って下さい。
- ガーナという国について、今知っていることをこのプリントの裏側に個条書きで書いてみて下さい。
- ガーナという国について知りたいのですが、どうやって調べていけばいいでしょうか。
- この紙幣を見て、気づいたことや考えたこと、疑問に思ったことなどを、このプリントにドンドン書き込んでいって下さい。(資料B)

(要約)

- 正解は5名/25名中
- チョコレート・野口英世・カカオ・食料不足・砂漠・動物・薄い服
- インターネット・図書館・等々
- カカオ・ガーナという文字・ダイヤ・何をしているのだろう・漁業をしている・木が浮かんでいる等々

「私は、この夏、ジャイカ（JICA）というところの海外視察研修で「ガーナ」という国を訪れてきました。しばらくは、このガーナという国について、学習していきます。」と言って、ガーナチョコレートを配布する。当然、ロッテのではなく、現地の本物のチョコレートである。日本のに比べると、こちらを食べなれているせいか、ちょっと苦みもありかなり食べ応えがある。板チョコだが、日本のより厚い。このチョコを出した時点で、教室がにわかに活気づく。

「食べていいんですか？」と聞いてくるから、「食べてもらおうと思って配布しました。遠慮なく食べて下さい。」と言う。授業時間にものを食べる習慣がないのか、唖然としている子もいるが、私の昨年までの教え子である5年生は喜んで食べている。それを見てか、全員「おいしい」と言って食べ始めた。

資料 A

一段落したところで、次の発問をして、授業に入っていった。

> ガーナという国はアフリカにあるのですが、どこにあるのですか。地図（白地図）を配りますので、ここと思う所を赤鉛筆で色を塗って下さい。

正解した子は、25名中たったの5名であった。4年生が1人、5年生が3人、6年生が1人であった。この5年生3人というのは、私の教え子で、昨年「お菓子から見える世界」ということで、ロッテの「ガーナチョコレート」を取り上げていた子どもたちである。

次に、地図プリントを裏がえにし、指示を出した。

> ガーナという国について、今知っていることをこのプリントの裏側に箇条書きで書いてみて下さい。

ほとんどの子が知識がない中、以下のようなことがあがった。

1）チョコレート　2）野口英世　3）カカオの実
4）食料不足　5）厚い－薄い服　6）ロッテ
7）動物　8）アヒルの種類　9）砂漠

いくつか、ガーナというより「アフリカ」というのがイメージと関連しているところもあったようだ。

「ガーナという国については、これから少しずつ学習していくとして、ここでは、どうやってガーナという国について調べていけばいいかということについて学習していきましょう。何てたって、情報クラブですからね。」と言って、次の発問をする。

> ガーナという国について知りたいのですが、どうやって調べていけばいいでしょうか。

すると、教え子たちが次々と、以下の模範的答えを出してきた。

インターネット／図書館／ロッテの会社に尋ねる／ガーナの人に聞く

「ここでは、まずガーナで使われている紙幣で学習してみましょう。」と言って、紙幣を配る。

> この紙幣を見て、気づいたことや考えたこと、疑問に思ったことなどを、このプリントにドンドン書き込んでいって下さい。紙幣のことをノートといい、この作業をノートランゲージと名付けます。

以下のようなことが書かれていた。なお、第1時限はここまでである。

〈1000セディ〉

カカオが写っている。／ガーナと書いてある。／カカオを割っている。／ダイヤが写っている。／鳥がいる。／ダイヤモンドを売っている。／カカオの実が写っている。／この人は何をしているのだろうか？／国のマークが書いてある。／クリスタルみたいだ。／カカオの実をとっている。／鉱物が描いてある。／人ではなく、ダイヤが載っている。／日本と違って、同じ人でも何かをやっているところが書いてある。／「バンク　オブ　ガーナ」と書いてあるかな？／お金には、青と緑でダイヤがきれいに色がぬられている。／ナイフを持っている。／ガーナ銀行と書いてある。／宝石が書いてある。／何の実だろうか？／ガーナの国旗？／こんな帽子は初めて見た。／木の実が書いてある。／金メダルがある。

〈2000セディ〉

何をしているのだろうか？／漁業をしている。／船がある。／網がある。／地引き網？／こんな生活をしているのだろうか？／皆、裸になって、網みたいなものを持って何かしている。／船は小さい。／魚釣りをしている。／何かを引っ張っている。

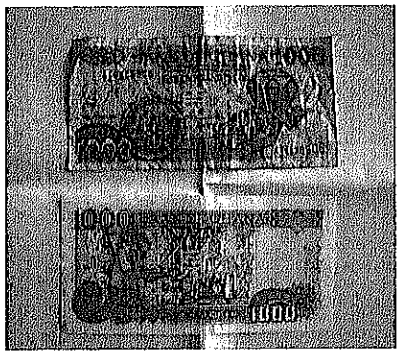
〈5000セディ〉

なぜ木が書かれているのか？／船がある。／ガーナの地図が載っている。／木のマーク。／このたくさんの木、何をするのだろう？／アフリカの地図が載っている。／木が浮かんでいる。／国の地図が書かれている？／丸太に人が乗っている。／日本みたいに偉い人が載ってない。／大きな船がある。／海。／海岸もある。／畑仕事をしている。／ガーナの葉？／超高級な船がある。／人が木に乗って遊んでいる。／電信柱が浮かんでいる。／どこの絵だろうか？

途中で、「1000セディって、いくらですか。」という質問があったので、およそ17円と答えておいた。

資料B

（上から5000セディ·2000セディ·1000セディ）



（1000セディの裏と表）

2時間目 コインと写真から

発問と指示

- この3つのコインを見て、気づいたことや考えたことを書いていきなさい。(資料C)
- では、次に、この2枚の写真からわかったこと、気づいたこと、考えたこと等をプリントに個条書きにしていきなさい。(資料D)

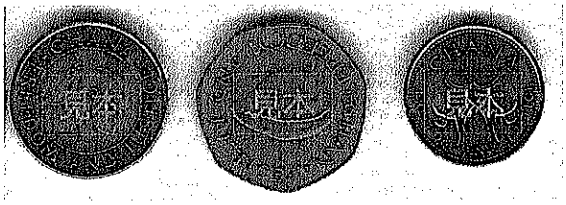
(要約)

カカオ・七角形・貝殻・民族楽器・太鼓・1.7円?・分厚い等々

山羊の肉がある・電柱がある・人がいっぱいいる・コンクリートの建物がある・子どもが働いている・日本とあまり変わらない様子だ等々

フォトランゲージからも、たくさんの意見が出た。詳しくは別途資料参照。

資料C



(100セディ)　(200セディ)　(500セディ)

前時のことを振り返る。ガーナ国の所在地を地図で確認し、正解者5名の紹介をする。

> 前回は、紙幣を見て気づきを書くノートランゲージというのを行いました。今回は、コインランゲージです。ここの3つのコインを見て、気づいたことや考えたことを書いていきなさい。

次のような意見が出された。

(100セディ)

100円とか書いてない。(裏に書いてあると助言)／カカオの実が描かれている。／全てにFREEDOM AND JUSTICE-GHANAと書いてある。／1.7円。

(200セディ)

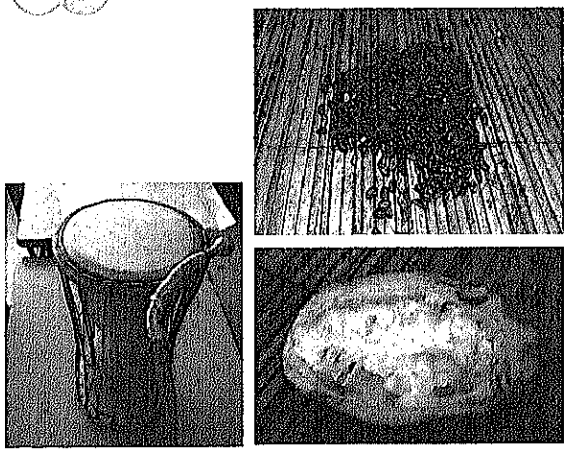
500セディより大きい。／七角形の形をしている。／月?／鎌?／貝?／刀。／大きいからといって、高いわけではないのだ。／バナナ?／カマキリの手?

(500セディ)

民族楽器かな?／太鼓がある。／分厚そう。／楽器がある。

そこで、実物の太鼓とカカオ(写真)とカカオ豆を見る。実際に触る。

資料E

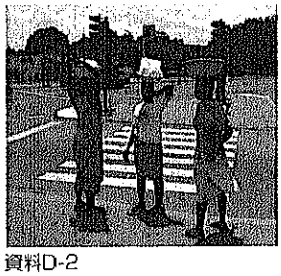


ノートランゲージとコインランゲージのあと、人間に迫るため、フォトランゲージをする。

下の写真を配布する。班に1枚ずつカラー写真を配り、参考にさせる。

資料D

資料D-1



資料D-2

> では、次にフォトランゲージです。この写真からわかったこと、気づいたこと、考えたことなどをプリントに箇条書きにしていきなさい。

次のような意見が出された。

（左側）（資料D-1）

日本のようにドアがない。／コンクリートの建物である。／タワーがある。／変な物体がある。／魚を売っている。／食器を売ってある。／山羊の肉がある。／タオルみたいのものがある。／大きな店がある。／皆、同じ人に見える。／男の人は皆、髪の毛が薄い。／子どもなのにピアスをつけている。／車がある。／人がいっぱいいる。／学校みたいなものがある。／子どもが働いている。／買い物をしたのをいれる籠がある。（頭に載せているもの）／電柱がある。／皆、肌の色が黒い。／頭に物をのせて運んでいる。／家がドアなどなく、全部開いている。／町の中に大きな木がある。／道路がでこぼこしている。／皆、サンダルを履いている。／人がいっぱいなので市場かな？／わらとかの家と思ったら、アパートみたいなものがある。／カメラ目線なので、気になるのかな？／ガーナの人々はバランス感覚が鋭い。／重たそう。／日本の服に似ている。／なぜ、頭にものをのせて運ぶのか？／店が並んでいる。／血がついた肉がある。／ガーナの模様がある。／交通に気をつけていない。／子どもを大人が迎えにきた？

（右側）（資料D-2）

信号機があるとは思わなかった。／頭に何か乗せて手を離しているけど、危なくないのか？／暑いなら帽子をかぶればいいのに？　／日本の信号機と違う。／車が少ない。／ガソリンスタンドがある。／影が短いから、これは昼間？／木がある。／何か、袋の中に入れて、たらいを頭の上に乗せて立っている。／日本とあまり変わらない様子だ。／3人とも顔がそっくり。／横断歩道もある。／信号が縦型。／子どもが働いている。／タオル？氷？　洗面器？／サンダルを履いている。／人が少ない。／ガーナの人は頭が平行かな？／砂漠と思っていたら、ガソリンスタンドまであった。

一応、第2時限まで終わった。これらの意見を次時に生かしていきたい。

全体的に、実践の目的は達成できたと考える。別紙にあるように、最後のアンケート調査によると、多くの子どもたちが世界に、青年海外協力隊に興味を示してくれた。もちろん、十人十色なのだが、同じ授業をしても受け取り方が違うので、やはりこの辺がいかに各人に国際理解教育を迫っていくのか、という課題が見えてきたことだった。

【3時間】カカオ豆から

①発問と指示をクイズ形式にて

発問と指示―クイズ

Q1　カカオはどのように実っているのでしょうか。絵を書きなさい。（資料F）　省略

Q2　カカオ生産量、世界第1位はどこの国でしょうか。　（ガーナ、コートジボアール、マダガスカル、ブラジル）

Q3　カカオは、チョコレートの原料ですが、チョコレートを一番食べている国はどこでしょうか。　（ガーナ、スイス、日本、ブラジル）

Q4　1つのカカオの実の中には、カカオ豆は何粒入っているでしょうか。　（10～20、30～40、50～60、70～80）

Q5　カカオは以前はお金として用いられていました。1520年頃、ニカラグアという国では、うさぎと奴隷をカカオ豆何個と交換していたでしょうか。　（1個、10個（ウサギ）、100個（奴隷）、1000個）

Q6.カカオの栽培されている地域は、以下のどれでしょうか。　（赤道周辺の熱帯地方、四季のある温帯地方、乾燥する砂漠地方、高緯度の寒冷地方）

Q7.日本でチョコレートが生産されたのは、いつごろでしょうか。　（江戸時代後半、明治時代、大正時代、昭和時代初期）

Q8.カカオ豆からチョコレートができるのですが、もう1つ私たちに身近なものができます。それは、何でしょうか。　ココア

ノート（紙幣）とコインの画像に共通していたのは、カカオ豆だった。そこで、今回は、カカオについて学習していくことにする。

Q1　カカオはどのように、実っているのでしょうか。絵を書きなさい。

次のような絵が書かれていた。（省略）

資料F

すでにコインなどで図案を見ていたせいか、正解が多かった。ただ、幹についている絵を書いていた子は少なかった。枝上に書いている子が多かった。

Q2：カカオ生産量、世界第1位は、どこの国でしょうか。（2001年）
①ガーナ　②コートジボアール　③マダガスカル　④ブラジル

正解は②なのだが、①か④を挙げていた子が多かった。②はガーナの隣の国であることを紹介する。

Q3：カカオは、チョコレートの原料ですが、チョコレートを一番食べている国はどこでしょうか。（1997年）
①ガーナ　②スイス　③日本　④ブラジル

正解は②だが、意外と正解が多かったようだ。チョコレート＝ガーナと考えている子はQ1同様、ガーナを選択している子が多かったようだ。

Q4：1つのカカオの実の中には、カカオ豆が何粒入っているでしょうか。
①10～20粒　②30～40粒　③50～60粒　④70～80粒

正解は②なのだが、③を選択している子が多かった。

Q5：カカオは以前はお金として用いられていました。1520年頃、ニカラグアという国では、うさぎと奴隷をカカオ豆何個と交換していたでしょうか。それぞれ選びなさい。
①1個　②10個　③100個　④1000個

正解は、うさぎが②、奴隷が③である。ちなみに、1545年のメキシコでは、野うさぎが100個だったようだ。貨幣が流通した19世紀に、カカオの貨幣としての役割は終わったようだ。

Q6：カカオの栽培されている地域は、以下のどれでしょうか。
①赤道周辺の熱帯地方　②四季のある温帯地方　③乾燥する砂漠地方　④高緯度の寒冷地方

これは、ガーナの地図上の位置が頭に残っている子には、簡単な問題であった。正解は、①である。カカオは、南米産でアフリカにもってこられたもので、このCDの中には、ガーナに広めた人の顔写真も載っている。

Q7：日本でチョコレートが生産されたのは、いつごろのことでしょうか。
①江戸時代後半　②明治時代　③大正時代　④昭和時代初期

これは、子どもたちが簡単という顔をしていた。理由は簡単だ。「明治製菓」という菓子メーカーがあることから、②と答える子が多かった。正解である。

Q8：カカオ豆からチョコレートができるのですが、もう1つわたしたちに身近なモノができます。それは何でしょうか？

これは皆が「ココア」と正解であった。

このあと、ガーナという国に関してのビデオを見せた。番組は2002年10月9日の日本テレビ「1億人の大質問　笑ってコラえて」というもので、「所ジョージがゆくダーツの旅」というコーナーで紹介された15分か20分くらいの世界編ガーナの旅である。

子どもたちは、見た子が3名ほどいたが、興味津々に見ていたようだ。

本来は、このクイズから○○ゲームのような教材を開発したかったのだが、私の力量を遥に越えていた。他の○○ゲームを見ても、念入りな開発作業が必要と感じた。このような開発研修があるのなら、ぜひ受けてみたいものだ。

【本時】野口英世について

発問と指示及び説明

- この手紙を解読しなさい。(資料G)
- 野口英世のお母さんが書いた手紙でした。野口英世は、ガーナではとても有名で、切手にも登場しています。(資料H)
- 野口英世って、どんな人ですか。
- 英世がガーナに渡ったのは、いつですか。(資料I)
- では野口英世とはどんな人か、ビデオを見ていきましょう。

●資料は、郵便局の「郵政トピックス」にあった「歴史に刻まれたメッセージ」という連載。

●ビデオは、NHKの「その時歴史が動いた」からのもの。

本時は、野口英世を取り上げてみた。スタンプランゲージの意味もこめてである。

郵便局においてある「郵政トピックス」という冊子の2002年6月号に「歴史に刻まれたメッセージ」という特集で野口英世が取り上げられていたので、ここでは、その資料を使用した。英世の母が書いたという実写の手紙を印刷したものを配布した。

この手紙を解読しなさい。

「何、これ？」「読めない」と言いながらも、しっかり読もうとしていた。しかし、東北弁でもあるので、難しいようだった。2分後に、その訳？されたものを配布した。すると、即、「野口英世？」と声をあげた。すかさず、「その通り、どうしてわかったの？」と聞くと、「テレビで最近、見ました」との応え。

今回は、そのビデオを見せる予定でもあった。番組は、NHKで2002年10月30日に放映された「その時歴史が動いた」というもので、野口英世が取り上げられていた。テーマは、「人類のために生き、人類のために死す～未公開書簡が明かす野口英世の真実」というものである。

野口英世のお母さんが書いた手紙でした。野口英世は、ガーナではとても有名で、切手にも登場しています。

と言って、左の切手を印刷したものを配布する。

下の写真にある楽器の切手は、前回紹介したので、今回は、トーキングドラムをCDにて紹介してみた。ラティオインターナショナル社の「世界の音楽と楽器」というCD（6800円）である。楽器自体は、ガーナより購入してきていたので、それを見せた。

http://www.ratio.co.jp

資料 H

それはさておき、今日は、野口英世について学習していくことを知らせる。

野口英世って、どんな人ですか。

と聞いてみた。「手を負傷していた」「医者」「黄熱病……」等という意見が出されたが、ほとんどの子が知らない様子だった。そこで、今日は、野口英世のビデオを見せることを言及。

まずは、野口英世の年表を配布。（先程の郵便局の冊子より）

英世がガーナに渡ったのは、いつですか。

昭和2年である。その冊子も黒板に掲示する。これまた郵便局からチラシ「母から子への手紙」というものも野口英世が取り上げられていたので、それを掲示する。

では、野口英世とはどんな人か、ビデオを見ていきましょう。

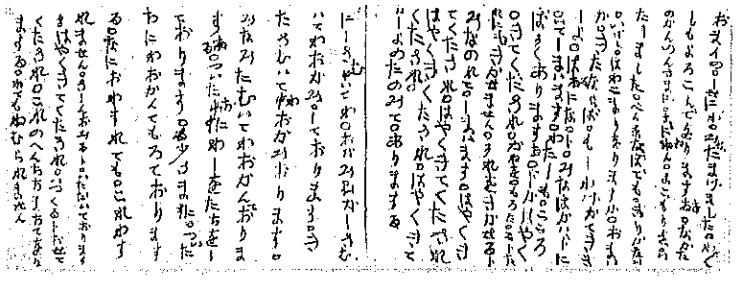
では、野口英世とはどんな人か、ビデオを見ていきましょう。

ここから、先程のビデオ（45分）をチャイムがなるまで見せた。正味30分ほどである。

最後に、感想を聞いて、本時は終わった。

日本人にも素晴らしい人がいたことを知ってほしかったし、それがガーナと関連があることも知ってほしかった。最後に、小泉首相とガーナのクフォー大統領との首脳会談の記事（インターネット首相官邸より）と新紙幣の1000円札に野口英世が登場するという新聞記事を紹介して終えた。

資料 G



▲文字を思い出しながら、シカが一生懸命書いた英世への手紙。文中にところどころ出てくる○は、シカにとっての句読点だったと思われる。

▲シカと英世。英世の不眠不休で研究を

野口英世の母の手紙（上）
とその訳されたもの（下）

資料 I

野口英世　年譜

明治 9年　福島県十二区三ッ和村三城潟（現在の猪苗代町）の農家に生まれる。
明治11年　4月末、いろりに落ち左手に大やけどを負う。
明治16年　三ッ和小学校（現猪苗小学校）に入学。
明治25年　会津若松の会陽医院院長・渡部鼎先生により左手の手術を受ける。
明治26年　5月、会陽医院に薬局生として入門。
明治29年　9月上京。10月医術開業前期試験合格。
明治30年　10月医術開業後期試験合格。順天堂医院に勤務。
明治31年　伝染病研究所助手となる。帰省中に英世と改名。
明治32年　フレスキナー博士の通訳として東京を案内。
明治33年　12月、横浜より渡米。
明治34年　ペンシルベニア大学フレスキナー博士の助手となる。
明治37年　ロックフェラー医学研究所一等助手となる。
明治40年　ロックフェラー医学研究所準正員に昇進。
明治44年　京都帝国大学より医学博士の学位を授与される。梅毒スピロヘータの純粋培養に成功。メリー・ダージスと結婚。
大正 2年　麻痺狂及び脊髄病患者の脳中にスピロヘータ・パリーダを検出発見。欧州各国の講演旅行に出発。
大正 4年　日本の帝国学士院より恩賜賞を授けられる。9月5日、15年ぶりに帰国。各地で歓迎会が開催される。
大正 7年　エクアドルで黄熱病病原体発見。11月10日、母シカ死去（66歳）。
昭和 2年　トラコーマ病原体を発表。10月アフリカへ黄熱病研究のため出張。
昭和 3年　5月21日西アフリカ・アクラで黄熱病の研究中に感染し51歳で死去。（ニューヨークのウッドローン墓地に埋葬される）

野口英世年譜

「歴史に刻まれたメッセージ」（郵政トピック2002年6月号）

【5時間】奴隷貿易について

【6～7時間】インターネットにて調べ学習

各自の調べ学習

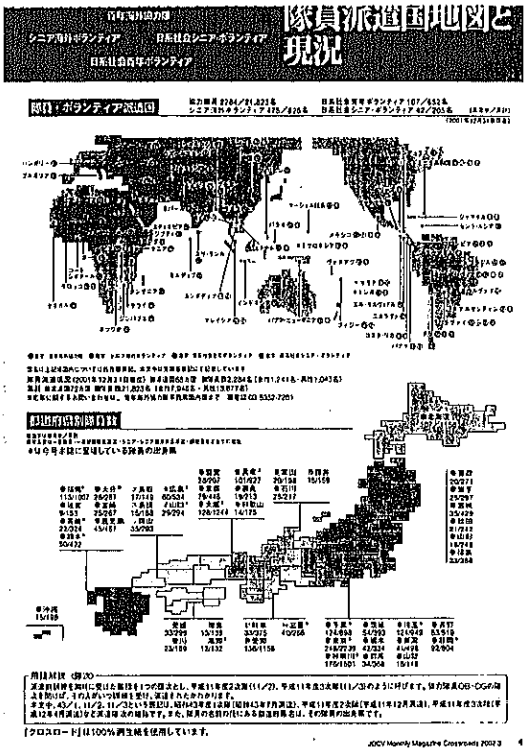
すべての予定の学習を終えたので、各自のガーナ調べ学習に入る。

今までの学習を振り返り、そして他の関連事項についても言及しておく。

1 フォトランゲージ（頭に乗せているものは？なぜ頭で荷物を運んでいるの？なぜ、小さい子が働いているのだろうか？）
2 ノート・コイン・スタンプランゲージ（紙幣や切手、コインからの課題）
3 野口英世のこと
4 ガーナのテレビ番組から（トーキングドラム等々）
5 調べ学習に入る前に（奴隷貿易とトレードビーズ、女性活動における石鹸、民族衣裳等々の紹介）
6 各自の調べ学習（インターネットにて）

2時間の調べ学習で、そのうち、1時間は私が出張であったので、自習となり満足な調べ学習の時間はとれなかった。野口英世やジャイカに興味を示した子たちが特に多かったようだ。

資料 J



資料 K

「街角メールガーナ発」加來喜代恵氏
（熊本日日新聞2002年11月8日,29日掲載記事）

資料 L

ジュディ・オングの 飲茶のあとで

明けましておめでとうございます。今年こそ穏やかな年になりますようにと願いながら、この欄を担当します。飲茶（ヤムチャ）のあとの雑談のように、リラックスしておつき合い下さい。

あのテロ事件からもう4カ月です。異なる文化、違う宗教、別の民族……。21世紀の初めに、世界は様々な課題を抱えています。でも私は、そのほとんどは互いを知ることで解消できる、と信じています。未知の価値観や慣習に接したとき、「ああ、それもありね」と言えるかどうか。ここが分かれ道です。

私にはイスラム教徒の友人がたくさんいます。ラマダン（断食月）は宗教行事ですが、暴飲を休める、ひもじさを知って思いやりの心を養うなど、合理的な意味があるそうです。ここで「なるほど」と思えるかどうかです。

日本ではお箸を横向きで置きますが、中国では縦に置きます。どちらが正しいというものではありません。それもあり、なんです。

谷村新司さんたちと参加したタイのコンサートで、終演後に王族の方にごあいさつしていた時です。共演した地元の有名歌手が突然倒れました。緊張のあまり貧血を起こしたかと慌てました。でも、彼女は倒れたのではなく、正式な作法でひれ伏したんですね。バレエのひん死の白鳥のような美しいポーズでした。

アメーバから多細胞生物になった人類が5大陸に分かれ、それぞれの気候風土の中で何万年も生きてきた。違うのが当たり前ですよね。百人一首の子供たちのように、その違いに素直に驚き、そして受け入れたいものです。

言えますか それもありね

（資料L）「ジュディ・オングの飲茶のあとで」
（2002年1月5日　朝日新聞掲載記事

この2時間で使用した資料は以下の通りである。

- ●ジャイカの青年海外協力隊の派遣状況（派遣先や人数など）（JICAクロスロード）（資料J）
- ●熊本日日新聞の夕刊（2002.11.8/29）に連載されている隊員の連載記事「街角メール　ガーナ発」加來来喜代恵氏（資料K）
- ●朝日新聞夕刊（2002・1・5）ジュディオング氏「飲茶のあとで　言えますか　それもありね」（資料L）

●●成果と課題●●

第8時限には、今回の授業に関して、アンケート調査を行った。

やはり、プラスイメージで受け取っている子とマイナスイメージで受け取っている子と半々に分かれたようだ。これはテロ事件の影響もあったようだ。外国は怖いという……。

アンケートの質問事項は以下の通りである。

1 ガーナという国についてわかったこと、初めて知ったことは、どんなことですか。
2 今まで次のような授業をしてきました。心に残ったものは？よかった順に番号を。
（紙幣やコインを見て、ガーナを推定する学習
（1）写真を見て、課題を立てる学習
（2）野口英世を理解する学習
（3）チョコを食べたり、衣服を着たり、曲を聞いたり、太鼓を叩いたりして、直にガーナに触れる学習
（4）カカオ等のクイズでガーナを理解する学習
（5）民放のビデオを見て、ガーナを理解する学習
（6）黒人奴隷についての人権学習
（7）インターネットでガーナを調べる学習
3 自分も青年海外協力隊員になったり、海外に行ってみたりしたいなと考えましたか。また、そのわけは?
4 ガーナに行ってみたいと思いましたか。また、そのわけは？
5 ガーナの学習をしての感想（何でもいいです）

これらの回答を総合して意見を分類してみる。

（プラスイメージの感想より）

1 ガーナに行って、カカオを持ってみたい、海老を食べてみたい、太鼓を叩いてみたいです。
2 ガーナのことについて勉強しているうちに、ガーナに行ってみたいと思ってしまいました。大人になっていきたいです。
3 インターネットで調べたり、ビデオを見たりして、勉強できてよかった。家でももっとガーナを調べてみたいです。ぜひ、ガーナについてお家の人ともお話したいと思っています。
4 隊員になりたい。他の国々の人々と楽しくやっていけそうだし、自分の国にその国の人たちのことを知ってもらえるから。
5 先生が言ったフーフーや他の食べ物を食べてみたいと思った。
6 ガーナの国のことがよくわかりました。私も行ってみたい！！
7 隊員になりたい。いろいろな国のことがわかっていいと思ったから。
8 隊員になりたい。サッカーを教えて、一緒にプレーしたいからです。
9 ガーナに行って野口英世のことやカカオの実などを見たりしたい。
10 ガーナはとても貧乏な国と思っていたけど、とても豊かな国とわかった。
11 ガーナのコインや紙幣からガーナの国の様子がよく

わかり、勉強になりました。

12 隊員になりたい。いろいろな国に行けるし、外国の人と友達になれそうだから。

13 陽気なガーナの人々を見ていると、心がほのぼのするが、お葬式の時に騒ぐのは、私はできない。…（中略）…野口英世は、ガーナの人々にとって、かなりの英雄だったに違いない。だって、他の国の人が自分の国を救おうとしてくれるのは、感謝するほかない！尊敬したいと思う。

14 ガーナと聞かれたら、ぼくは貧しいというイメージがあったんですが、貧しくないということが調べて思いました。

15 隊員になりたい。いろいろな国の人を助け、その人たちと触れ合う機会があるからです。

16 太鼓の音が本場ではどういう音がするのか、行って聞いてみたいです。

17 ぼくが印象的だったのは、野口英世でした。黄熱病でなくなってしまったけど、ガーナと日本の架け橋みたいになって、研究しているからです。

18 ぼくは、ガーナの人たちはいつも笑っていたので、あんなマイペースなところもいいなーと思いました。

19 ガーナに行ってみたい。日本と違うところがいろいろあって楽しそうだから。

20 先生の話を聞いて、面白そうと思ったから、ガーナに行ってみたい。

（マイナスイメージの感想より）

1 隊員になるより、平和な日本で楽しんだがいい。

2 隊員にはなりたくない。日本との違いがうまく理解できるかどうか、わからないから。

3 ガーナには行きたくない。マラリアが怖い。

4 青年海外協力隊員は、たいへんそう。

5 特技がないから、隊員にはなれない。

6 飛行機事故が怖いし、2年間もは無理だ。

7 お金がかかるし、何となく面倒くさいから、ガーナには行きたくない。

8 ガーナには行きたくない。日本の食事とあっていなかったり、マラリアにかかったりするし、予防法を知ってないと難しいと思う。また、日本と生活が少し違うので、「どうかな？」というのが本音だ。

9 隊員にはなりたくない。いろいろな国にいかなければならないので。

10 日本の方が平和だから、どこにも行きたくない。

11 友達とあえなくなるので、行きたくない。

同じ授業なのだけれども、受け取り方は様々だということがわかった。さらに、同じ理由なのに、行くか行かないかにわかれることも面白いなとつくづく感じた。

なお、12月15日（日）には、日本ユニセフ協会熊本県支部の「第24回ユニセフハンドインハンド」という募金活動にクラブ員10名と共に参加してきた。

また、今後の国際理解の授業に生かしていきたい。

▩参加動機およびプロフィール

KIEP（熊本国際理解教育を進める会）に入会し、1999年に「チョコレートからガーナが見える」というテーマで研究授業を行いました。この研修旅行ではガーナの人、食事、家、自然等々を事典ではなく「自分の目」を通して確かめたいです。特に国外の教育に関心があるため、ガーナでどのような教育が行われているのかについてとても興味があります。また、海外といえばヨーロッパのみしか知らないので、アフリカの一国であるガーナを見て、自分の見識を高め、今後の教材開発の一助としていきたいと考えております。

開発教育への取り組みとしては、KIEPの書記を務める傍ら、インターネット運営（メーリングリスト）もしてきました。KIEP主催の各種会合で、実践発表・模擬授業をする他、2000年度は現任校研究主任となり、当時3年生の総合的な学習の時間において国際理解教育を大々的に取り上げました。